

■二宮町総合戦略・総合計画 委員・WSからの意見と対応

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
① 安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる	(1) 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	▼ 公共施設の総合的なマネジメントプロジェクト	公共施設課 都市整備課	廣上委員	提案3「未利用公共用地をデコにした公的施設の更新・再配置の推進」 ・公共施設、公共用地の状況と今後の維持管理に係るコストを明確にし、総合的管理及び利活用計画を住民参加の仕組みの下で策定する。 ・公的施設の更新・再配置に当たっては、①未利用公共用地の利活用②予想される大災害対応——に最大限配慮した計画にする ・PFI方式をはじめとする民間の資金、ノウハウの活用、施設の複合機能化などにも取り組む。 ・小規模公園をはじめ、町民自身が管理や利活用可能な施設や用地については、町民グループ、ボランティア等に委ねることを検討する。	未利用公共用地をデコにした公的施設の更新・再配置を推進してほしい	▼公共施設の総合的なマネジメントプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針7-3-4で対応
				町民WS(子育て・教育)	■小中学校の統廃合などによる公共施設の有効活用 ・小中一貫校にしてはどうか。 ・百合ヶ丘保育園は狭いので人数が減っている一色小学校を保育園にしてはどうか。 ・小学校と保育園を一緒にして地元の人たちが集まれるコミュニティスペースにしたい。自然が沢山でなるにはもったいない。	小中一貫校にして施設を複合化してはどうか	▼公共施設の総合的なマネジメントプロジェクトに意見の主旨を反映しました 「学校教育」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(3) 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の醸成▼子どもたちの「生きる力」創造プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 学校教育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				稲葉委員	■子どもや子育て世代が安全に外出できる環境づくり 気軽に子どもと遊べる場所として公園を整備する事は大切だが、公園の環境内容をもっと考える必要がある。吾妻山に遊具を置いたことも最善とは思えない。頂上手前に遊具を置いたことによって、「子供が頂上まで辿り着かない」という問題も発生している。1〜2歳児でも登れる山として利用していたが、遊具が出来て以降、吾妻山が週末の候補から外された。遊具を目的に遊びに行くのであれば、駐車場も充実した平塚の総合公園や中井町の公園へ行くのが現状である。遊具を置けば、管理も必要となってくる。何処にどのような遊具を置くのが慎重に検討して頂きたい。 ラディアン裏手に完成した「ラディアン花の丘公園」の現在の利用者数はどうだろうか。計画通りの人数が訪れているのだろうか。「ふわふわドーム」は風を送り込んでドームを膨らませていると伺ったが、運営管理にお金がかかり過ぎてはいないだろうか。お金がかかる割に利用者数が少ないのであれば本末転倒ではないだろうか。子供にとっては遊具が必ず必要なものではない。伸び伸びと走り回れる場所、泥だらけになって遊べる水場、ハイハイ期から利用できる芝生の丘、整備されたトイレがある事が重要である。遊具をむやみに置いてしまえば、多目的に利用しにくくなる。公園の環境を整えるのであれば、利用者の多い公園から学ぶ必要があるのではないだろうか。	子ども・子育て家庭の目線で公園づくりをしてほしい	▼公共施設の総合的なマネジメントプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針4-3-1にて対応
				菅澤委員	3. 地域で子育てを応援し、子どもが主役のまちをつくる 1) 子どもが主役になれるしくみや環境をつくる ①公園などの遊び場づくりやこども関連の行事やイベントに、こどもの意見をとりいれる。 ②ラディアンや花の丘公園を子どもたちが自由に使える日をつくり、フェスタなど子どもが主役のイベントを開催する ③自然の中で遊べる環境をつくる ・子どもが自由に遊べる公園や里山づくり ・花の丘公園や東大農園跡地の開放 ④子ども会議の開催			
				町民WS(子育て・教育)	子育てカントリーづくりプロジェクト ■概要：子育て世帯向けに転入プロモーションを行う。 ・二宮町の転入の理由は「家族や親戚がいるから」というものが多いので、長期的に考えた場合、たくさん二宮町で産んでもらい、その子どもたちが将来転入してきれることも意図して、転入してたくさん産んでもらうことが重要である。 ▼具体的な取り組み：子どもの遊び場プレーパークづくり ・東大跡地に、住民の活動を取り入れて、常時人がいる遊び場、プレーパークを整備する。 ・シニアが活動を支援することで、若い保護者も活動に一步踏み出せるようにする。			
				▼ 大規模公有地の有効活用プロジェクト	企画政策課	廣上委員	提案3「未利用公共用地をデコにした公的施設の更新・再配置の推進」 ・公共施設、公共用地の状況と今後の維持管理に係るコストを明確にし、総合的管理及び利活用計画を住民参加の仕組みの下で策定する。 ・公的施設の更新・再配置に当たっては、①未利用公共用地の利活用②予想される大災害対応——に最大限配慮した計画にする ・PFI方式をはじめとする民間の資金、ノウハウの活用、施設の複合機能化などにも取り組む。 ・小規模公園をはじめ、町民自身が管理や利活用可能な施設や用地については、町民グループ、ボランティア等に委ねることを検討する。	未利用公共用地をデコにした公的施設の更新・再配置を推進してほしい
		駒沢委員	1.5 HUB構想 次の魅力作りはHUBになること。西湘地区のHUBになり、⑥交通HUBは二宮町の地政学を活かして、古くは軽便鉄道に始まり、秦野、中井それに大井を含めた交通の起点となること。これには道路と鉄道があり、それらのトラフィックを二宮町に向ける。二宮駅を起点に道路と鉄道を結び付けるハード・ソフトの施策が必要である。	二宮は西湘地区の「HUB」として交通結節点機能を高めたい	総合計画で対応していきます	基本構想の土地利用構想図に沿って町の骨格としてのインフラ整備を行います		

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見 ※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。	意見主旨	二宮町総合戦略（素案（案））への反映	
							二宮町総合計画（素案（案））への反映	
① 安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる	(2) 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり	全体		駒沢委員	1.4 少子化抑止の施策、健康長寿の里 前提でも示した④少子化抑止の施策は、既に多くの中長期計画に含まれているので割愛し、高齢人口の急増について⑤「健康長寿の里、二宮」を提案したい。健康寿命を延ばし医療・福祉の費用を抑え、現役世代の負担を少しでも軽くすることが目的であり、施策として採り上げるべきと考える。「長寿の里」までは全国区だが、「健康長寿の里」に格上げして魅力の一つにしたい。	健康づくりも含めた高齢者対策をしてほしい	▼高齢者がいきいきと暮らせる生活支援プロジェクトと▼みんなで健康づくりプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針1-2で対応
		▼ 高齢者がいきいきと暮らせる生活支援プロジェクト	健康長寿課	岡本委員	2. 地域の見直し：二宮町の現在の地域社会が、2025年問題（超高齢化社会）の社会構造に適しているか。 (1) 自治会（町内会）・地区長会（20地区）・地区社協部会（11部会）・老人クラブ・民生委員の担当地域等の町内の住民組織の役割・地域割りの見直し ①二宮町においては、都市型（準）限界集落における地域社会が出現している。安心して住み続けられる地域とするためには、自治会（地区長）と地区社協部会等の組織の一元化を図る必要があると考える。 ※役員不足の解消策・行事等の重複、効率的な地区活動運営 ②平成29年度から町・社協が「地域福祉計画」及び「同活動計画」を策定する準備を進めている。これと連動させて住民の地域参加意識の啓発を推進し、住民の見守り・生活支援・介護予防等の「住民主体型」のネットワークづくりを急ぐべきだろう。そのためにも、地域の見直しが必要である。 ③今回の総合戦略と地域福祉計画（含む地域包括ケアシステム）は、この新しい地域社会の再編成を行う良い機会ととらえたい。これまで問題になりながら手のつけにくい基礎的な課題解決は、今後のまちづくりに必要なことと考える。 (2) 新しい地区社協と、地域包括ケアシステム ①現在、地区社協部会は11地区に地域割りされている。高齢化社会の小さな部会は地域完結型の自治活動を行うには限界がある。支援に必要なボランティアの確保だけでなく行事等開催も困難な状況にある。高齢化社会の地域の支援ネットワークには、現在の地区社協の圏域を小学校区程度に広げる必要があると考えている(1つのエリアで、8,000人～10,000人規模が必要ではないか)。 ②私案ではあるが、二宮町を上記の3つの生活圏域に分けて、例えば、二宮北（一色小）南（二宮小）、西（山西小）の3つで、地域福祉の協議体を新たに組織する。地域コミュニティセンター（又はボランティアセンター）を置き、見守り・介護予防・生活支援及び子育てや一時保育等の包括的な支援センターの役割を担う。（3地区には、北（百合が丘子育てサロン）、南（栄通り子育てサロン）があり、西（新規）を置く） ③この新たな地域福祉の協議体（仮に新地区社協と呼ぶ）は、地域包括ケアシステムの生活圏域と位置づけて、生活支援コーディネーターの配置を行うことができる。 ④このエリア構想においては、町・社協・自治会連合会・NPO等の活動を一体化させた仕組みを想定している。併せて「協働のまちづくり」として町民主体の活動であることを押さえておく必要がある。	高齢者の地域支援ネットワークの見直しが必要だ	▼高齢者がいきいきと暮らせる生活支援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針7-2-1で対応
		町民WS（コミュニティ）			■地域組織の柔軟な運営（第2回意見を掲載） ・地域組織に長年携わってきた人には、そのやり方があると思うが、新しい人が参加しやすくするために、組織の運営に関して自由に任せられる部分を作るなど、柔軟に対応できるようにしてはどうか。 ▼具体的な取り組み：普段から関われる環境づくり ・いつでもいけて、いつでも関われるイベントや活動があると良い。 ▼具体的な取り組み：きっかけづくり ・地域活動に参加しても、ユニフォームなどがあると気後れしてしまう。人によって気になる部分は違うと思うが、いろいろな人が参加しやすいように、地域活動は少しラフなくらいがよいのではないか。形にとらわれずに気軽に入れる形であればもっと参加しやすくなると思う。 ▼具体的な取り組み：組織を時限的にして、定期的に組織を一新する ・地域組織の活動が停滞しているのであれば、3年くらいで組織を解散させ、また新たに設立することを繰り返してはどうか。組織は活動期間が長くなればなるほど固定化される。 ・保育園のPTAなど1年で交代するような組織の場合、やってみて課題が見つかることが多い。次の役員にその課題を申し送り、次の人に取り組んでもらえるような仕組みができると良い。			
	▼ みんなで健康づくりプロジェクト	保険医療課 生涯学習課		前田委員	■健康体カづくり教室の1つとして、老若男女誰でも気軽に楽しめる「ノルディックウォーキング」を介護予防・健康寿命の延伸の面からも取り上げていただきたい。ノルディックウォークは、エクササイズ効率がよく、一般的な歩行運動と異なり、上半身の筋肉もより積極的に使われて首や肩の血行も促進され鍛えることができる。全身の約90%の筋肉を使用する有酸素運動を、疲れをあまり感じることなく長い時間行える。メタボリックシンドローム対策として有効である。また、足首・膝・腰などへの負担が軽減され、転びにくくできる。自然環境や街中など日常生活のなかでどこでもできる利便性があり、吾妻山の頂上やラディアン花の丘公園の花の広場にも登ることができる。などの効果がある。	介護予防・健康寿命の延伸のための健康づくり教室を開いてほしい	▼みんなで健康づくりプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針1-4-2にて対応 ※ノルディックウォーキングではなく、ウォーキング等

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。			
① 安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる	(3) 地域コミュニティの醸成支援	▼ みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクト	企画政策課 町民課 健康長寿課 子ども育成課	菅澤委員	<p>2. 町民が活躍できるまちをつくる</p> <p>(1) 町民活動補助金やサポートセンターを使いやすくし、情報や場の提供、資金面などのサポートで、町民活動を応援する。</p> <p>(3) まちづくりに町民の意見が反映できる仕組みや機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の意見を反映する仕組みと活躍の場をつくる ・女性の意見を反映する仕組みと活躍の場をつくる ・ネットの活用 <p>(4) 国や県の施策も活用し、市民事業をサポートする仕組みをつくる</p>	町民活動がしやすい環境づくりをしてほしい	▼みんなが地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針7-1-2で対応
				井上委員	<p>■町民による行政支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の総合戦略の検討委員ですが、「応募したのに落ちた」と残念がっている人に何人か会いました。町のために何かしたいと思っている人は意外と多いのではないのでしょうか。自営の方は自らの仕事を通じて町に貢献していることを実感する機会は多いと思いますが、勤め人は仕事でやっていることを町のために生かす機会がありません。でも、話を聞いていると、デザインの仕事をやっているとか、企画職だとか、多彩な面々がいますし、「もっと町をこんなふうにしたい」という思いを持っている方も多いです。しかし、そういう話を町政に携わる方と話す接点・きっかけがないのです。町にしてみても、どんなユニークなアイデアや能力を持った人が二宮に住んでいるのか、把握できていないでしょう。 ・そこで、行政に欠けている技能・人脈等を持っている人を民間から募って、役場と意見交換しながら、彼ら・彼女らの能力も発揮してもらって、町に貢献してもらうような仕組みを作れないでしょうか。今回の総合戦略検討委員のように一過性のものではなく、継続的に町民の知恵と知識と技能と人脈を町づくりに活かせるような仕組みがあると良いと思います。それも特定の人に偏るのではなく、任期制にして、一人でも多くの方が町政に関われるのが理想でしょう。また、「委員会」のような堅苦しいものではなく、カフェでお茶を飲みながら語り合うような雰囲気、フランクな場になると良いと思います。 ・このような場があれば、これまで出会うことのなかった町民達自身もつながり合うこととなり、コミュニティの醸成にもつながると思います。 			
				井上委員	<p>市民活動の支援制度の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレイパークや朝市など、お母さん達を中心となって、育児のための自主的な活動が色々行われています。このように、行政が主導するプログラムだけでなく、町民目線での取組みが自発的に生まれてくることも重要だと思います。しかし、そういう自発的・自発的な取り組みの多くは、主催者がボランティアで実施しているため、負担が多くなりがちです。そこで、町民の自主的な町づくり活動を行政が支えるような仕組みを作れないでしょうか。支援内容については、資金面での援助であったり、場所が必要なものは地権者との交渉であったり、お墨付きや広報支援であったり、規制の緩和であったりと、色々なものがあり得ると思いますが、住民がやりたいことを行政が何とかして叶えてあげる。そういう行政側の姿勢と協働体制が、今後の町づくりには不可欠になると考えます。 →今EUには、LEADERプログラムと言って、住民達が自らの地域社会の課題解決のために提案する活動に対して、助成を行うプログラムがあります。千葉県市川市では、住民税の1%を基金にして、市民活動の助成に当てるといいう仕組みをつくっていますが、このようなやり方で町民自身に町づくりを担ってもらうための仕組みを作るのはいかがでしょうか。 			
井上委員	<p>■住民参加による葛川再生事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮は自然がいっぱいのイメージがありますが、海は泳げないですし、山で薪を切ったり、焚き火ができたわけではないし、意外と実際に自然と触れ合える場所はありません。一番残念なのは、町の中心を流れる葛川が汚い上、水遊びができるような親水空間もないことです。葛川が綺麗で、水遊びができるような場所があれば、小さな子のいる家族は大喜びでしょうし、子連れ家族の交流の場、子供の遊び場にもなります。昔は葛川で泳いでいたと聞いたことがありますから、きっともっと綺麗だったのでしょう。秦野は、町の中心を流れる川が遊び場になっていますが、とても羨ましいです。 ・葛川の水がもっと綺麗ならば、震災や噴火災害が起きて水道が止まった時に飲料水や生活用水として使えるので、安心につながります(飲料水にするにはさすがに浄水器を通す必要があるでしょうが、生活用水としてなら問題なく使えるでしょう)。震災時、一番困るのは、トイレと水です。二宮は人口密度が低いですし、山や海もあるので、トイレは最悪、外ですれば何とかあります。しかし、水がありません(井戸を持っている家はありますが)。葛川が生活用水として使えるくらい綺麗ならば、いざという時に水で困ることがありません。葛川再生は、災害対策としても意味が大きいです。 ・また、再生事業を住民参加型でやれば、コミュニティの醸成につながります。一緒に作業をすると人の距離は一気に近づきます。自分も町のために何かしているという貢献意識は、町への愛着を高めます。勿論、自治会・神輿会・子供会・消防団などに参加することで、町との距離は近づきますが、それら旧来型の住民組織は、誰もが気軽に参加できる雰囲気はないですし(歴史的に培ってきた文化や不文律のルールが若い世代には古臭く見えてしまいます)、参加に伴う負担も大きいので、どうしても限られた人だけの参加になりがちです(或いは義務としての当番制になってしまいます)。しかし、川の再生事業なら新しい取り組みですから、参加者は、皆、平等な状態でのスタートになり、新住民や若い世代も参加しやすいでしょう。住民だけでなく、環境系のNPOにも参加してもらえば、取り組みとしての広がりも出ますし、町外の人との交流の場にもなります。 ・葛川では水質改善、生態系&景観の再生、それに親水空間の創出を目的にするべきです。生活排水対策なども含めて大掛かりになりますが、中井町・大磯町とも協働しながら、きちんとした再生事業にできると良いと思います(流域の市町村連携の例としてもユニークなものになるでしょう)。(原文にはトヨタのプロジェクトの事例紹介あり) ・欧米では、三面コンクリート張りにしてしまい、景観としても、生態系としても、親水空間としても魅力の乏しいものになってしまった河川を自然に戻す「近自然工法」が普及しています。氾濫にも強く、景観的にも美しく、生態系保全にも資する河川再生の手法はあるはずなので、研究者にも入ってもらって、最新の研究成果を活かした取り組みになればと思います。 	まちづくりへの住民参加を通して地域コミュニティを醸成する	▼みんなが地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「葛川再生」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(2)二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 地域コミュニティに関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います				
				町民WS(コミュニティ)	<p>■地域組織の柔軟な運営(第2回意見を掲載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域組織に長年携わってきた人には、そのやり方があると思うが、新しい人が参加しやすくするために、組織の運営に関して自由に任せられる部分を作るなど、柔軟に対応できるようにしてはどうか。 ▼具体的な取り組み：普段から関わる環境づくり ・いつでもいけて、いつでも関われるイベントや活動があると良い。 ▼具体的な取り組み：きっかけづくり ・地域活動に参加しても、ユニフォームなどがあると気後れしてしまう。人によって気になる部分は違うと思うが、いろいろな人が参加しやすいように、地域活動は少しラフなくらいがよいのではないか。形にとらわれずに気軽に入れる形であればもっと参加しやすくなると思う。 ▼具体的な取り組み：組織を時限的にして、定期的に組織を一新する ・地域組織の活動が停滞しているのであれば、3年くらいで組織を解散させ、また新たに設立することを繰り返してはどうか。組織は活動期間が長くなればなるほど固定化される。 ・保育園のPTAなど1年で交代するような組織の場合、やってみて課題が見つかることが多い。次の役員にその課題を申し送り、次の人に取り組んでもらえるような仕組みができると良い。 	地域活動に参加しやすい環境づくりが必要だ	▼みんなが地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針7-2-1で対応

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。			
① 安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる	(3) 地域コミュニティの醸成支援	▼ みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクト	企画政策課 町民課 健康長寿課 子ども育成課	町民WS(コミュニティ)	<p>防災無線など広報手段を使った子ども・子育て家庭にやさしい雰囲気づくりと町民への意識喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮町が子どもや子育て家庭にやさしいまちとしての雰囲気づくりをするために、防災無線を使った広報活動を行う。 ・5時のメロディーにあわせて、小中学生が考えた標語などを子どもの声で流す。標語などの内容は子どもに考えてもらうのではない。 ・防災無線は、緊急用のアナウンスのみに使われており、現状でそれ以外の目的に使うことは難しい。頻繁に使用すると、うるさいと苦情が来ることもある。 ・5時のメロディーは、防災無線が正常に作動するか確認する意味もある。5時のメロディーと一緒に小中学生が考えた標語を流す程度であればできるかもしれない。当面は、試験的に5時のメロディーと一緒に標語を流し、反応がよければ意識啓発のメッセージを流す回数を増やすなど町民と行政がやりとりをしながら調整していけばよい。 ・吾妻山の近くの地区など、防災無線が聞き取りにくい場所がある。あわせて改善が必要ではないか。 ・自主的にあいさつができる雰囲気づくりが進むと良い。あいさつ活動をしている組織もあるようだが、個人レベルでも自らあいさつができる環境ができると良いと思う。 	子育て家庭にやさしい雰囲気づくりに取り組んでほしい	▼みんなが地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針2-1-2で対応
				職員WS	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅等の空き部屋に対し、新たな入居者を複数世帯募集し、応募者に対して補助金や家賃の割引等を行う。募集をかける際には対象を設定(子どもの年齢など)し、同世代がより近くに住むことで、新たなコミュニティの醸成が期待できる。更に応募者には自治会への入会を条件とするなど、既存のコミュニティの振興も図る。 	空き家を活用した地域コミュニティの再生に取り組みたい	▼みんなが地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「空き家活用」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信 ▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針4-1-2で対応
				廣上委員	<p>提案1 「百合が丘団地再生のまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮町、県住宅供給公社、住民組織などで構成する「団地再生まちづくり協議会」を設立し、再生の方向や共有すべきビジョンについて議論し、必要な調整等を行う。 ・県公社が計画するハード・ソフト両面の再生施策は地域全体への波及に配慮し、住民組織との協力、連携を重視したものにす。 ・再生計画を通じて生じる用地、遊休施設には民間活力を積極的に導入し、地域の活性化につながる施設やサービスを整備していく。 ・高齢化の進展に対応した地域福祉を検討する住民組織(百合が丘地区高齢者福祉協議会)は町、社会福祉協議会などの協力を得て他地区でも展開可能な仕組みづくりに着手する。 ・前記「団地再生まちづくり協議会」と協力し、山百合の群生地(一色小裏山)、共同農園(計画中)、朝採り野菜売場、みかん畑、オリーブ畑、古民家、古道、横穴古墳群など地区内および周辺の文化・自然遺産を積極的に発掘・整備・PRし、地域再生に役立てる。 ・神奈川県に対し、県営テラス住宅(約200戸)についても再生計画の立案を求め、「団地再生まちづくり協議会」を通じた再生の取り組みをエリア全体に広げる。 ・戸建て地区でも増加が目立つ空き家対策では、空き家バンクや住み替え支援制度の整備に取り組み、子育て世代の流入を促す。 	空き家を活用した地域コミュニティの再生に取り組みたい	▼みんなが地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「空き家活用」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信 ▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトを参照 「文化・自然遺産の発掘・整備・PR」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(2)二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針4-1-2、7-2-1で対応
部委員	<p>■地域と共生する団地(団地共生プロジェクトの推進)</p> <p>二宮団地においては、空家の増加や少子高齢化が進行しており、高齢者の支援や生きがいづくり、若者世代の誘致が大きな課題となっている。</p> <p>そこで、現在模索中ではあるが、二宮団地においては「地域と共生する団地」をコンセプトに共同農園の整備運営などを軸にして、農と食によるスローライフや田舎暮らしの魅力を発信し、地産地消の拠点としての付加価値を高めることを検討している。</p> <p>地域と共生する団地とは、地域の社会、経済、環境と共生することをめざす団地という意味である。少子高齢化、家族の崩壊、コミュニティの衰退などにより無縁社会化する傾向にあって、多世代がケア&シェアしあい、高齢者も生きがいやなりわいを見出せる共生社会を実現する。地域産業である農業と連携し、団地を地産地消の拠点にするなど、地域経済との共生を図る。地域の農地・里山や古民家などの維持保全活動に参画し、地域の自然や環境と共生する。こうした価値を地域と共有することをめざすものである。</p> <p>子育て世帯の誘致にあたっては、一色小学校を維持するために必要な子育て世帯数の確保を具体的な目標として設定し、誘致のために住宅の商品価値向上の工夫を行う。また、団地の住棟全体が老朽化しているため必要な修繕、耐震改修工事を実施するとともに、管理効率を改善するため、住棟の集約・再編を検討する。</p> <p>このほか、廃止住宅等のアグリ・ツーリズムなどへの有効活用、古民家コンサートををはじめとする地域の音楽活動の振興、なども含めて、平成28年当初には二宮団地共生プロジェクトの計画をまとめ、公表する予定である。</p>							

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見 ※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。	意見主旨	二宮町総合戦略（素案（案））への反映	二宮町総合計画（素案（案））への反映
① 安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる	(3) 地域コミュニティの醸成支援	▼ みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクト	企画政策課 町民課 健康長寿課 子ども育成課	職員WS	<ul style="list-style-type: none"> 子育てがしやすい町を目指す際、重要となるのは地域とのつながりである。そこで、空き家や空き店舗などを活用し、平時より子どもを中心とする多世代間の交流が図れる地域交流拠点を設置する。これにより、子どもが安全に遊べる場所の確保や、地域とのつながりの強化により、防犯にも効果が期待できる。 	いつでも利用できる地域交流拠点づくりを進めてほしい	「地域交流拠点づくり」については、▼みんなが地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトを進める中で具体的な内容について検討していきます「空き家活用」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2（1）「にのみやLife」の提案と発信▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に追記 分野別方針7-1-2に配慮事項として追記
				町民WS（コミュニティ）	<ul style="list-style-type: none"> ■空き家を活用した地域の交流の場づくり ○取組 ・空き家を活用するためには、まず地域の人たちが何のためにどのように活用したいかを考えなければならない。所有者や行政と掛け合う前に、まず地域の人たちが主体となって空き家活用の方向性についてしっかり考え、それを地域内で共有することが重要だ。 ・行政は、空き家に関する情報を持っているが、全ての情報を出すわけにいかない。しかし、地域の要望に応じて、地権者との調整や活動に必要な支援を行うことなどできることもある。空き家の活用を促すためにも、行政は地域の要望に応じて、情報提供や調整ができるという姿勢を町民に伝えていくことも大事だ。 ・空き家活用においては、地域主体で進めつつ、必要に応じて行政が支援をする関係ができると良い。 ○所有者に対するメリット ・所有者にとって、物件を貸すことにメリットがあれば話が進みやすいのではないかな。 ・空き家活用を進めるときのメリットとしては、持ち主に代わって地域が管理してくれることにある。 ・空き家を活用させてもらう代わりに、地域で空き家を管理し、定期的な物件の様子を所有者に提供するなどのしくみができると良いのではないかな。 ○5年後の将来像 ・空き家を活用して何らかの活動が行われている状態を目指す。 ・活動の内容は地域特性や課題によるため、特定しない。 ・子どもが自由に出入りできる場・遊び場としての活用や、まんが喫茶的なもの、小さな子どもを持つ母親が集える場、場合によっては店舗や事業の場としての活用も考えられる。 ・空き家の活用の可能性は大きい。 			
				前田委員	<ul style="list-style-type: none"> ■民生・児童委員などを含め、町民どうしが世代をこえ相談しやすい仕組み・環境の構築をお願いしたい。 ・多世代が地域交流できる場の提供（例 家・庭・畑等を開放する“あちこち開放”事業、子どもでいうと「子どもSOSの家」の遊び場版みたいなもの。開放してもいい部屋、庭、畑、広場、空き地にプラカードを設置して、自由に出入りできるようにする）をお願いしたい。 			
				町民WS（まちなちの魅力づくり②）	<ul style="list-style-type: none"> ■二宮いきコミュ（いきいきコミュニティ）プロジェクト ■概要：人をつなぎ、地域や場をつなぐ拠点づくり（具体的な取り組みの起業と空き家・空き店舗の活用は基本目標4で記載、観光と文化は基本目標2で記載） みんなが自然に集まれる場で、そこに行けばいろいろ情報が分かり、みんなにとって縁側・プラットフォームとなれる、サロンのような拠点を作る。例えば、そこに行けば観光やボランティア活動の情報が分かる場所をつくる。その拠点は、人をつなぎ、地域や場所をつなぐマッチング機能を有する。町と町民の持っている情報をとりまとめ、町と町民をつなぐ総合窓口のような役割を持つ。町の人材や資源を活用できるプログラムを実施する。指導してくれる人や専門家と呼ぶなどの旗振り、きっかけは町がやるとしても、それに町民が乗り、活動して行く中で町と町民の役割分担ができて、活動を継続できればよい。二宮町にはお互いが顔のつながり動いている面もある。二宮は地域のつながりが活かされている地域で、それを活用する。住民の力を活用して、町と町民が一体となった事業を行うことができれば良い。町民は親切な人が多い。いかに知恵を出すかだろう。 ▼具体的な取り組み：既存施設を活用したモデル事業から広げる 地区会館を活用するなど、既存の施設を活用できればよい。ギャラリーが起点となっているところもある。そこには情報を求めてくる人がいるため、常駐者が必要となる。まずはモデルとなる場を作り、そこから広めていってはどうか。二宮にはさまざまな経験してきた人がたくさんいて、いろいろなことをやれる人材はいる。大きなイベントで集客するのではなく、町の資源を活用した形でたくさんの方が来てくれるような仕組みを作る必要がある。 ▼プロジェクトに必要なこと： 【キーマンの存在】キーマンとなる人がいると活動は継続できる。行政と町民につなぐ、コーディネートできる人がいると良い。多くの団体がつながれば面白いことができる。つながることが大切である。 【行政の見える化と一定の方向性】行政のやっていることが見えてこず、情報を外に出していく必要がある。商店街をどう活性化するか。また、再開発をしていくのか、それとも今までの資源を活用していくのか。空き家、空き店舗をどうするのか。企業誘致を行うのか。町をどういうベッタウンにしていくのか。町をどうするのかの方向性を示す必要がある。みんなと同じ方向を向いていない民間を活用する場合、町として方向性を示す必要がある。そうしないと、民間のやりたいようになってしまう。 【役割分担】町はやり過ぎる。町民の力を活用する必要がある。役割分担の仕組みが必要である。たらい回しではなく、相談に行ったら何でも対応してくれる部署があればよい。町民が活動しやすくなるための仕組みや部署が必要である。専門家は必要だが、やるのは町民である。地域で解決できるグループがあれば良い。 ▼その他 魅力づくり、子育て、仕事、コミュニティの4つを話し合うことは必要だが、それぞれがバラバラではなく、関連・リンクする部分もある。それらを総合的に検討することも必要である。 			
	(4) 災害や犯罪に備える地域づくり	▼ 地域の方で災害に強いまちづくりプロ	防災安全課 消防課 消防署	-	-	-	-	-

基本目標	施策の		担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への	
	項目	事業項目					反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
② 二宮の強みを活かした魅力ある暮らしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる	全体	-	-	連実委員	<p>※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。</p> <p>策定にあたっては、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標を踏まえるということで、それぞれ、①雇用 ②人の流れ ③若い世代 ④地域づくり をテーマとし二宮版基本目標を設定しました。</p> <p>このなかで②の人の流れを、「二宮の強みを活かした新しい暮らしを提案し、発信する」という基本目標としましたが、これは基本目標ではなく、具体的施策になるのではないかと思います。</p> <p>②の人の流れは、国は地方移住と就労拡大により、神奈川県は魅力づくりにより、ひとの流れをつくるというイメージと解釈できるのではないのでしょうか。すると基本目標としては、神奈川県の基本目標と同じように「二宮への新しいひとの流れをつくる」といったような文言あたりが適当かと思われるのですが、そうすると、その下に続く施策が作り易くなると思いました。</p> <p>2. 基本目標2 についての具体的施策・事業の提案を致します。</p> <p>二宮町への人の流れを創出するために、をテーマとして、二宮町に住みたい、二宮町を訪れたい、といった思い、希望、あこがれを抱けるような魅力づくりを施策・事業として取り上げたいと思います。</p> <p>(提案内容)</p> <p>具体的施策</p> <p>①定住環境づくりの推進 ②観光資源の充実、整備 ③教育学習環境づくりの推進 ④他・・・</p> <p>重要業績評価指標</p> <p>③未読率の向上、図書館の来館者数</p>	基本目標2の考え方を再整理してほしい	<p>基本目標の表現を修正します</p> <p>修正案：「二宮の強みを活かした魅力ある暮らしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる」提案された施策・事業については以下に対応します</p> <p>①→施策(1)「にのみやLife」の提案と発信トに反映</p> <p>②→総合計画で対応</p> <p>③→(3)特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の醸成</p> <p>重要業績評価指標については、施策やプロジェクトの趣旨を考慮し、「ラディアンの来館者数」を使用しました</p>	<p>(定住環境づくり)</p> <p>総合戦略で対応</p> <p>分野ごとの定住環境づくりは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います</p> <p>(観光資源の充実・整備)</p> <p>分野別方針に盛り込み済み</p> <p>分野別方針6-3-1にて対応</p> <p>(教育学習環境づくり)</p> <p>分野別方針に盛り込み済み</p> <p>分野別方針2-2にて対応</p>
	(1) 「にのみやLife」の提案と発信	▼ 「にのみやLife」プロジェクト	企画政策課	井上委員	<p>「女性が活躍できる町」としてのブランド発信</p> <p>・「家族×幸せ=にのみやStyle」は会議の席上でも異論がありましたが、やめたほうが良いと思います。ただし、二宮の印象を高めてもらうためにも、二宮の象徴になるものを「二宮らしさ」として発信していくことは重要と考えます。</p> <p>・では、何を「二宮らしさ」とするか。二宮に来て印象的だったのは、吾妻神社(弟橘姫がご神体。縁結びの神様)や浅間神社(木花咲耶姫がご神体。縁結びの神様)、それに六所神社(榊稲田様がご神体。女性の守り神)と、女性にまつわる神社が多いことでした。女性が守られている町なんだな、と思いました。その後、妻が「女性のための鍼灸院」を謳い文句に南口に鍼灸院を開業させて頂きましたが、お陰様で、ここまで順調な滑り出して、妻も東京にいた頃より、ずっと生き生きと暮らしています。妻の周りにも、移住してきて、ここ二宮で、自分らしい生き方をされている女性達がいます。二宮は、きっと「女性の運が開ける町」なんだと思います。</p> <p>・女性の町長ですし、女性議員も多いですし、「女性が暮らしやすい町」「女性が活躍できる町」「女性が活躍する町」というブランドづくりが、二宮ならできるのではないかと思います。具体的にどんな施策をしていけばいいのかまではアイデアは持ち合わせていませんが、それこそ町長や女性議員、それに役場の女性職員が中心となって町の女性達と対話を繰り返す中で見出していけば良いと思います。</p> <p>→今最近、千葉県流山市が「母になるなら、流山市」というPRを行っています(都内駅構内にポスターを貼り出したり、専用ページを使って発信したりしています)、子育て以前の方も含めて、女性のための取組みを充実させているようです。こういうところが何をやっているのかも参考にしながら、女性のための取組みを検討してみるのも良いかと思います。http://www.nagarevama-city.jp</p> <p>→愛知県豊田市では、山間の過疎地にIターン&Uターンしてきた女性達8人を取り上げた冊子「里co」を制作・販売しています(http://sb-ken.com/contact/index.html)。移住支援の一環として作られたものですが、8人8様のライフスタイルが描かれていて、豊田市の山間部に移住するとどんな暮らしができるのか、イメージがしやすくなっています。この冊子のように、二宮町の女性達のそれぞれの素敵なライフスタイルを取り上げるような冊子・ホームページを作ってみるのも良いかもしれません(この場合、固定観念に縛られず、できるだけ多様な女性の生き方を取り上げることが重要です)。</p>	「女性の活躍できる町」を前面に出したPRをしてはどうか	<p>「家族×幸せ=にのみやStyle」の表現を見直しました</p> <p>修正案：「にのみやLife」</p> <p>▼ 「にのみやLife」プロジェクトに意見の主旨を反映しました</p> <p>「女性が活躍できる町」関連については以下の項目にも意見を反映しました</p> <p>→基本目標3(2)子育てと仕事の両立の推進</p> <p>▼ 「女性が活躍できるまち」実現プロジェクトを参照</p> <p>具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます</p>	<p>総合戦略で対応</p> <p>分野ごとの子育て対策は記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います</p>
				稲葉委員	<p>■子育てと仕事の両立の推進</p> <p>母親の就業継続・就業支援については保育園や一時的な預け先の充実が不可欠である。男性の働き方の見直しは、企業問題が大きいため、町レベルで解決できる問題ではない。解決できる部分があるとするならば、二宮町での生活は出費が抑えられ、サポートも厚い為、長時間働く必要が無いとアピールする事だろう。特色を出すとするならば、畑が安価で借りることが出来、農業ワークショップを充実させ、二宮のライフスタイルは出費が少なく済むというイメージを持たせる事も一つの手である。農業への国からの支援が始まった今、経営者と連携を取り、空き家を安価で提供し、二宮町へ定住させる流れを作ることは必要である。</p>	子育て家庭が生活しやすいことをPRしてはどうか	<p>▼ 「にのみやLife」プロジェクトに意見の主旨を反映しました</p> <p>具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます</p>	<p>総合戦略で対応</p> <p>分野ごとの子育て対策は記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います</p>
				菅澤委員	<p>1. 子どもや女性が魅力を感じるまちをつくる</p> <p>1) 駅前に小学校があることを活かし、子どもたちの絵や作品・ウェルカムメッセージ等を飾り、駅からラディアンまで楽しく歩けるストリートにする。</p>	子どもや女性が魅力を感じるまちとしてPRしてはどうか	<p>▼ 「にのみやLife」プロジェクトに意見の主旨を反映しました</p> <p>具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます</p>	<p>総合戦略で対応</p> <p>分野ごとの子育て対策は記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います</p>
				岡本委員	<p>総合計画と今回の総合戦略の策定を通して、多くの町民が二宮町のこれからの将来像をイメージできるようにすることが大切だと考える。軸となる私たちの町づくりのイメージが共有され、そこに町全体に向かっていくことが重要で、この町が生き残り、発展するカギとなると言っても良いだろう。その意味でも4つの基本目標の「地域づくり」「暮らしの提案」「子育て」「仕事の創出」からの施策が、町のイメージ(長寿の里?)を創り上げるものでなければならぬ。「この軸の見える化」の視点でいえば、「新しい暮らしの提案」(にのみやスタイル)というフレーズは、その是非は別として、評価できる。問題はこれがどのようなイメージなのか、町民共有のものとなり得るものなのかだと思ふ。</p>	町民が共有できる「新しい暮らしの提案」を発信してほしい	<p>▼ 「にのみやLife」プロジェクトに意見の主旨を反映しました</p> <p>プロジェクトを進める中で、「新しい暮らし」について具体的に提案していきます</p>	-
				井上委員	<p>二宮町ポータルサイト・コミュニティサイトの設置</p> <p>・二宮に住むことを決める前、二宮のことを調べようと思っても、ほとんど情報がとれませんでした。今の時代、まずはインターネットで調べると言う人が多いと思いますが、いくらネット検索しても、二宮という町がどんな町かよくわからない。実際に住んでからも、どういってお店があって、どうい活動があって、というのがほとんどわからない。地域に知り合いができること色々教えてもらえるようになりますが、それだっただけで出入りするコミュニティによって情報はまちまちです。</p> <p>・二宮では色々な人が色々な活動していますが、それが一元的に見られる場所がありません。Facebook上の「コモエスタ二宮」がある種のポータルサイトになりつつありますが、Facebookをやっている人しか見られませんが、Facebookゆえ情報の蓄積性や一貫性も弱く、限界があります。また、「結婚したら二宮に住もう」というサイトもありますが、これも情報発信の質・量ともに、十分とは言えません。</p> <p>・移住を考えている人向けというだけでなく、住民自身のためにも、町の情報が一覧できて、どこで誰が何をやっていて、これからどんな楽しそうなイベントがあるか等、情報を発信したり交換したりできる町のポータルサイト、コミュニティサイトのようなものがあれば良いと思うのですが、そういうものが作れないでしょうか。</p> <p>・ただし、この場合、どこかの業者に委託して、いかにも「行政がやっています」的な、面白さも洒落さも無いようなサイトを作るのではなく、既に二宮で情報発信している方々(コモエスタ二宮の管理人等)に相談しながら、今の若い人達にも支持されるような、センスの良いものを作ることが大事だと思います(住民自身に作ってもらったり、運営を委託したりするのも良いと思います)。</p>	HP等を活用して二宮町の情報を得やすい環境づくりしてほしい	<p>▼ 「にのみやLife」プロジェクトに意見の主旨を反映しました</p> <p>具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます</p>	<p>総合戦略で対応</p> <p>町のHPは既に稼働しているため、町が公式に発信する情報は既に各分野にゆだねられています。また、町民の情報発信支援は分野別方針7-2-1にて対応しています。</p> <p>総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います</p>
				町民WS(まちの魅力づくり①)	<p>二宮コンシェルジュプロジェクト</p> <p>■概要：HPを使った二宮の魅力の情報発信</p> <p>・町には魅力が既にあるという前提で情報発信を行う。</p> <p>・一般的な観光情報だけでなく、町民の日常生活情報や休日の過ごし方など、二宮の様々な情報をリアルタイムで発信する。</p> <p>・町民の中から情報を発信してくれる人を幅広く募集する。</p> <p>▼具体的な取り組み：ファミリーの生活情報などの日常生活の情報発信</p> <p>・町外に毎日通勤するお父さんの一般的な生活を伝える「お父さんの一日」や、町内で一日を過ごす「お母さんの一日」、リタイアした高齢者が畑を楽しむ様子などを伝えるなど、年代を問わず町民の日常生活を発信し、二宮町に転入を希望する層に二宮ライフをアピールする。</p> <p>・町民が買物する店舗の情報や、休日に子どもと出かける場所の情報、畑を借りられる場所など田舎ライフ情報なども発信する。</p> <p>・公開日記風、ブログ形式や、facebook形式など、手軽にできる方式で情報発信を行う。文章だけでなく、写真もあると良い。</p> <p>▼具体的な取り組み：観光のお勧めルートの発信</p> <p>・HPでは町民がそれぞれ自分のお勧めルートを発信できるようにする。里山巡りや、鎌倉古道、道祖神など、テーマ性を持たせた観光ルートを発信する。</p> <p>・ガイドマップ等の印刷物は、現在は各主体がそれぞれバラバラにマップを発行しているため、大手旅行会社等が書式を揃えてパンフレットを作っているのを真似て、書式を揃えたと経費も安くなり、多様なルートを紹介出来るのではないかと。ボランティアガイド等による「まち歩き」を開催できると良い。</p> <p>▼具体的な取り組み：準公式案内人の設置</p> <p>・町民による自発的な情報発信は、内容等が特定の分野等に偏る可能性があるため、客観的に総合的に情報発信を行う「準公式案内人」(準は町が公式に設置する案内人ではないという意味)を設置してはどうか。</p> <p>▼課題、行政へお願い：</p> <p>・安心してまち歩き出来る歩行空間の整備や、案内標識の整備をお願いしたい。</p> <p>・学校の質がアップすれば、転入者も増えるのではないかと。</p> <p>・町が掲げる「長寿の里」は若いファミリー世帯の転入を狙うのであればミスマッチではないかと。</p>			

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。			
② 二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる	(1) 「にのみやLife」の提案と発信	▼ 「にのみやLife」プロジェクト	企画政策課	町民WS(子育て・教育)	<p>子育て世帯向け転入プロモーションプロジェクト</p> <p>■概要：子育て世帯向けに転入プロモーションを行う。</p> <p>○ミッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少緩和を目指す。 ・転出を止める。 <p>→賃貸している人に対して、二宮町で持ち家を購入してもらい、あるいは、広い賃貸に引っ越ししてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人目を産んでもらう。 ・転入を促進する。 <p>○目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住んでよし」を目指し、町内は静かに生活し、生活に必要な施設は、近隣市町に行く。 ・便利な田舎を目指す。 ・施設の利便性に対して、二宮町は田舎であることをよしとする。 <p>▼具体的な取り組み：二宮で「住む」という日常をブックレットにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政などが取組む新しい案も合わせて提案、記載する。 ・子育てにやさしいということを、わかりやすくアピールする。 ・吾妻山は観光客に対してはアピールになるが、転入促進ではないので、これに頼らない。 <p>▼具体的な取り組み：子育て世帯転入促進のための行政などの新しい取組を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町と連携して、近隣市町の公共施設も安く利用可能とする。 	子育て家庭が生活しやすいことをPRしてはどうか	▼「にのみやLife」プロモーションプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 分野ごとの定住環境づくりは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				菅澤委員	<p>4. 県の施策や近隣自治体とも連携し、「生活をトータルにサポートする」「湘南で暮らす・遊ぶ・楽しむ」ことをアピールし、「住むなら二宮」と思える環境を整える。</p> <p>2) 行政サービスをシンプルに使いやすくするためのICT化とワンストップサービスの提供</p> <p>5. 行政のICT化を早急にすすめ、情報の一元化と利便性を高めるとともに、コミュニティサイトをつくり、町と町民、町民と町民をつなぎ町内外に情報を発信する。</p>	行政サービスを使いやすくしてほしい	「「住むなら二宮」と思える環境」の部分については、▼「にのみやLife」プロモーションプロジェクトに意見の主旨を反映しました 「ICT化」や「ワンストップサービス」については、行政改革の中で対応します	総合戦略で対応 分野ごとのPRは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います ICT化 分野別方針7-3-3にて対応
		▼ 空き家を活用した定住希望実現プロジェクト	企画政策課 都市整備課	廣上委員	<p>提案4「空き家の管理、利活用計画の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の空き家調査データを地域と共有し、空き家が地域コミュニティに悪影響を及ぼさない管理をするよう持ち主に働きかける。 ・空き家は地域にとっては重要なストックでもある。空き家を地域や他地区に住む子育て世代が利用、活用しやすい金融体系を盛り込んだ住宅流通システムを構築する。 	空き家の利活用を促してほしい	▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針にて盛り込み済み 分野別方針4-1-2にて対応
		町民WS(子育て・教育)	<p>子育てカントリーづくりプロジェクト</p> <p>■概要：子育て世帯向けに転入プロモーションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮町の転入の理由は「家族や親戚がいるから」というものが多いので、長期的に考えた場合、たくさん二宮町で産んでもらい、その子どもたちが将来転入してきれることも意図して、転入してたくさん産んでもらうことが重要である。 <p>▼具体的な取り組み：子育て世帯が転入するための空き家の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク ・二宮町の住み替え希望者向けの口コミ集め、提供 ・空き家の片付け支援や片付け資金提供 ・不動産事業者との情報共有 			総合戦略で対応 分野ごとの定住環境づくりは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います		
		菅澤委員	<p>4. 県の施策や近隣自治体とも連携し、「生活をトータルにサポートする」「湘南で暮らす・遊ぶ・楽しむ」ことをアピールし、「住むなら二宮」と思える環境を整える。</p> <p>1) 空き家バンク制度をつくり機能させる。県社の団地活用とも運動させる。</p>					
		稲葉委員	<p>■空き家バンク制度の創設</p> <p>空き家バンクは多くの市町村で取り入れられ、転入者の確保に繋がっている。また、「ロハス」という言葉が流行している事でも分かる通り、都市から離れ、自然の中で暮らす生活様式が数年前から若い世代の憧れとなっている。その為、空き家を調査し、所有者と話し合う事も早急に行わなくてはならないが、空き家の有無に関わらず、インターネット、広報を利用し情報発信をすぐにも行う事がまず必要である。どこの市町村でも行われている事業はいかに早く形に出来るかが重要である。</p> <p>所有者にとっても目に見えない形で話をするよりも、実例を見ながら理解するほうが、現実味がある。所有者にとっての不安は、大切な財産がなくなってしまうのではないかと、どんな人が住むのかという事、使用方法、利用目的等さまざまである。それらの不安は実例が身近になく、目に見えないからこそ大きくなる。大切な財産であるが、放置したままの状態になっている物件を人や地域活性化の為に役立てることが出来るという事が分かれば、一歩先に踏み出す気持ちが湧いてくるのではないだろうか。</p> <p>空き家バンクを設立するにあたり、空き家の増改築への補助金が必要になってくる。しかし町の予算には限度があり全てに補助金を出すことは難しい。そうであれば、地域の工務店や住民の力を借りて、出来る限り「お金」を使わず出来るサポートを打ち出すことが必要である。</p>					
		職員WS	<p>・町の人口については、現状維持が目標。近隣市町村への転出を減らし、転入を増やすことで、自然動態の減少を補う。そのためには、子育て世代への支援が重要と考えられ、新築に対する固定資産税の減免措置の延長やJRなどの通学定期の補助、保育園、学童保育等の子ども対策の充実などに取り組み、転出に歯止めをかけるとともに、新たな子育て世代の転入拡大を図る。</p>	子育て家庭の定住に対する支援をしてはどうか	▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトの中で支援の可能性を検討していきます 現状では、提案のあった減免措置や補助制度の創出は難しい状況ですが、子育て世代を問わず、新たな人の流れをつくるため、定住者全般に対し、支援できる内容を検討していきます	総合戦略で対応 分野ごとの定住環境づくりは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います		

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。			
② 二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる	(1) 「にのみやLife」の提案と発信	▼ 空き家を活用した定住希望実現プロジェクト	企画政策課 都市整備課	職員WS	・子育てがしやすい町を目指す際、重要となるのは地域とのつながりである。そこで、空き家や空き店舗などを活用し、平時より子どもを中心とする多世代間の交流が図れる地域交流拠点を設置する。これにより、子どもが安全に遊べる場所の確保や、地域とのつながりの強化により、防犯にも効果が期待できる。	いつでも利用できる地域交流拠点を進めてほしい	▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「地域交流拠点づくり」関連については以下の項目でも具体的な内容について検討していきます →基本目標1(3)地域コミュニティの醸成支援 ▼みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に織り込み済み 分野別方針2-1-2で対応
				町民WS(コミュニティ)	<p>■空き家を活用した地域の交流の場づくり</p> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家情報は個人情報問題で全てを公開することは難しい。情報公開によって空き家へのいたずらが心配されるため、簡単にはいかないとも予測される。空き家を活用したいと考える地域に対してどのように情報提供するかが課題だ。 ・空き家の活用で一番問題となるのは「継続性」の問題だ。空き家は所有者の心変わりでいつ使えなくなるかわからない。また、空き家を借りて運営する側も継続的な活動が必要だ。空き家を使うのであれば、こうした流動的な状況を踏まえて活用方法を考える必要がある。 <p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用するためには、まず地域の人たちが何のためにどのように活用したいかを考えなければならない。所有者や行政と掛け合う前に、まず地域の人たちが主体となって空き家活用の方向性についてしっかり考え、それを地域内で共有することが重要だ。 ・行政は、空き家に関する情報を持っているが、全ての情報を出すわけにいかない。しかし、地域の要望に応じて、地権者との調整や活動に必要な支援を行うことなどできることもある。空き家の活用を促すためにも、行政は地域の要望に応じて、情報提供や調整ができるという姿勢を町民に伝えていくことも大事だ。 ・空き家活用においては、地域主体で進めつつ、必要に応じて行政が支援をする関係ができると良い。 <p>○所有者に対するメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所有者にとって、物件を貸すことにメリットがあれば話が進みやすいのではないかと。 ・空き家活用を進めるときのメリットとしては、持ち主に代わって地域が管理してくれることにある。 ・空き家を活用させてもらう代わりに、地域で空き家を管理し、定期的に物件の様子を所有者に提供するなどのしくみができると良いのではないかと。 <p>○5年後の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用して何らかの活動が行われている状態を目指す。 ・活動の内容は地域特性や課題によるため、特定しない。 ・子どもが自由に出入りできる場・遊び場としての活用や、まんが喫茶的なもの、小さな子どもを持つ母親が集える場、場合によっては店舗や事業の場としての活用も考えられる。 ・空き家の活用の可能性は大きい。 			
				前田委員	<p>■民生・児童委員などを含め、町民どうしが世代をこえ相談しやすい仕組み・環境の構築をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代が地域交流できる場の提供(例 家・庭・畑等を開放する“あちこち開放”事業、子どもでいうと「子どもSOSの家」の遊び場版みたいなもの。開放してもいい部屋、庭、畑、広場、空き地にプラカードを設置して、自由に出入りできるようにする)をお願いしたい。 			
町民WS(まちの魅力づくり②)	<p>■二宮いきコミュ(いきいきコミュニティ)プロジェクト</p> <p>■概要：人をつなぎ、地域や場をつなぐ拠点づくり(具体的な取り組みの起業と空き家・空き店舗の活用は基本目標4で記載、観光と文化は基本目標2で記載)</p> <p>みんなが自然に集まれる場で、そこに行けばいろいろな情報が分かり、みんなにとって縁側・プラットフォームとなれる、サロンのような拠点を作る。例えば、そこに行けば観光やボランティア活動の情報が分かる場所をつくる。その拠点は、人をつなぎ、地域や場所をつなぐマッチング機能を有する。町と町民の持っている情報をとりまとめ、町と町民をつなぐ総合窓口のような役割を持つ。町の人材や資源を活用できるプログラムを実施する。指導してくれる人や専門家を呼ぶなどの旗振り、きっかけは町がやるとしても、それに町民が乗り、活動して行く中で町と町民の役割分担ができて、活動を継続できればよい。二宮町にはお互いが顔のつながりで動いている面もある。二宮は地域のつながりが活かされている地域で、それを活用する。住民の力を活用して、町と町民が一体となった事業を行うことができれば良い。町民は親切な人が多い。いかに知恵を出すかだろう。</p> <p>▼具体的な取り組み：既存施設を活用したモデル事業から広げる</p> <p>地区会館を活用するなど、既存の施設を活用できればよい。ギャラリーが起点となっているところもある。そこには情報を求めてくる人がいるため、常駐者が必要となる。まずはモデルとなる場を作り、そこから広めていってはどうか。二宮にはさまざまな経験してきた人がたくさんいて、いろいろなことをやれる人材はいる。大きなイベントで集客するのではなく、町の資源を活用した形でたくさんの方が来てくれるような仕組みを作る必要がある。</p> <p>▼プロジェクトに必要なこと：</p> <p>【キーマンの存在】キーマンとなる人がいると活動は継続できる。行政と町民につなぐ、コーディネートできる人がいると良い。多くの団体がつながれば面白いことができる。つながることが大切である。</p> <p>【行政の見える化と一定の方向性】行政のやっていることが見えてくると、情報を外に出していく必要がある。商店街をどう活性化するか。また、再開発をしていくのか、それとも今までの資源を活用していくのか。空き家、空き店舗をどうするか。企業誘致を行うのか。町をどういうベッタタウンにしていくのか。町をどうするか方向性を示す必要がある。みんなで同じ方向を向いていない民間を活用する場合、町として方向性を示す必要がある。そうしないと、民間のやりたいようになってしまう。</p> <p>【役割分担】町はやり過ぎる。町民の力を活用する必要がある。役割分担の仕組みが必要である。たらい回しではなく、相談に行ったら何でも対応してくれる部署があればよい。町民が活動しやすくなるための仕組みや部署が必要である。専門家は必要だが、やるのは町民である。地域で解決できるグループがあれば良い。</p> <p>▼その他</p> <p>魅力づくり、子育て、仕事、コミュニティの4つを話し合うことは必要だが、それぞれがバラバラではなく、関連・リンクする部分もある。それらを総合的に検討することも必要である。</p>							
職員WS	・集合住宅等の空き部屋に対し、新たな入居者を複数世帯募集し、応募者に対して補助金や家賃の割引等を行う。募集をかける際には対象を設定(子どもの年齢など)し、同世代がより近くに住むことで、新たなコミュニティの醸成が期待できる。更に応募者には自治会への入会を条件とするなど、既存のコミュニティの振興も図る。	空き家を活用した地域コミュニティの再生に取り組みしたい	▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「既存コミュニティの振興」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標1(3)地域コミュニティの醸成支援 ▼みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針4-1-2で対応				
廣上委員	<p>提案1 「百合が丘団地再生のまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮町、県住宅供給公社、住民組織などで構成する「団地再生まちづくり協議会」を設立し、再生の方向や共有すべきビジョンについて議論し、必要な調整等を行う。 ・県公社が計画するハード・ソフト両面の再生施策は地域全体への波及に配慮し、住民組織との協力、連携を重視したものにす。 ・再生計画を通じて生じる用地、遊休施設には民間活力を積極的に導入し、地域の活性化につながる施設やサービスを整備していく。 ・高齢化の進展に対応した地域福祉を検討する住民組織(百合が丘地区高齢者福祉協議会)は町、社会福祉協議会などの協力を得て他地区でも展開可能な仕組みづくりに着手する。 ・前記「団地再生まちづくり協議会」と協力し、山百合の群生地(一色小裏山)、共同農菜園(計画中)、朝採り野菜売場、みかん畑、オリーブ畑、古民家、古道、横穴古墳群など地区内および周辺の文化・自然遺産を積極的に発掘・整備、PRし、地域再生に役立てる。 ・神奈川県に対し、県営テラス住宅(約200戸)についても再生計画の立案を求め、「団地再生まちづくり協議会」を通じた再生の取り組みをエリア全体に広げる。 ・戸建て地区でも増加が目立つ空き家対策では、空き家バンクや住み替え支援制度の整備に取り組み、子育て世代の流入を促す。 	空き家を活用した地域コミュニティの再生に取り組みしたい	▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「既存コミュニティの振興」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標1(3)地域コミュニティの醸成支援 ▼みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトを参照 「文化・自然遺産の発掘・整備・PR」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(2)二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針4-1-2、7-2-1で対応				

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見		意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
				意見元	意見内容			
② 二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる	(1) 「にのみやLife」の提案と発信	▼ 空き家を活用した定住希望実現プロジェクト	企画政策課 都市整備課	職員WS	※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。 ・異業種交流会の開催(創業コーディネーター)や空き店舗家賃補助(企業補助金等)の交付を行う。起業支援HP立ち上げなどICTを活用した支援を行う。	空き家を起業・開業支援に活用してはどうか	▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「起業・創業」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標4(1)地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり▼二宮町での起業・開業応援プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針6-2-3にて対応
				井上委員	ローカルビジネス創業支援 二宮は比較的裕福な人が多い割に、大磯にあるような洒落た店が少なく、買い物を楽しめる場所がないのが残念です。車で周辺に行けば何でも手に入るの不便はありませんが、もっとローカルな特色のあるお店があると、暮らしももっと楽しくなります。(中略)大型店と差別化するためにも、パン屋さんのようにオリジナルな商品を自作できる製造小売型の、小商圏を相手にしたローカルビジネスの集積を目指すべきです。(例:たびするくま) ・二宮は、商圏人口は確かに少ないかもしれませんが、競争相手も少ないので、決して商売に向かない土地ではないと思います。ただし、商売を始めようと思っても、空き店舗が少ないのが難点です。商店街の店舗を借りようとする、シャッター街の割に家賃は割高に感じます。家賃さえもっと安くできれば、町外からでもお店をやりたい人が来てくれるでしょう。以前、会議の席上で商工会長が仰っていたように、町民による起業数は少ないかもしれませんが、店舗を用意するからお店をやりに来てくれと呼びかければ、町外からお店をやりたい人が来ると思います。 ・そこで、商店街の空き店舗になっているところを行政の力で貸し出せるようにし、かつ、家賃も低く設定(或いは、家賃の補助をする)した上で、空き家バンクのように空き店舗情報をPRする。また、今、二宮になくて、町民が欲しいと言っているお店の例示をし、そういうお店をやってくれる人に優先的に貸し出すようにする(複数集まる場合は店のコンセプトを提案してもらい、町民に選んでもらう)。そんな仕組みをつくれませんか。南口は、商店だったところがどんどん宅地化しています。宅地になってしまったら、商店街は二度と戻ってきません。人口も減っていく中、大型店舗の維持は難しくなるでしょうから、そのうち撤退していくでしょう。そうなったら買い物する場所がコンビニ以外なくなります。何としても商店街を残さないといけません。宅地になる前に、商店街を商店街として残す仕掛けを、是非、つくってください。 →商店街に賑わいを取り戻すためには、商店だけでなく、人が自然に集まってくる場所をつくることも大事です。(中略)(ポケットパークや)小さなカフェでもオープンすれば、さびれた商店街に潤いをもたらすオアシス的なスポットになるでしょう。シャッター街にコインパーキングというのは、全国的に広がっている光景ですが、それを二宮では断固阻止するという姿勢が大事ではないでしょうか。(事例:コインパーキングの緑地化(佐賀市)) →(中略)(ラディアンで自習している中高生のために)商店街の空き店舗を自習スペースとして整備し、自由に使えるようにしたらどうかと思いました。(中略)(ここで)言いたかったのは、商店街を商店の集積ではなく、人が集まる場所と定義直してみたらどうかということです。商店街を商店が集積として再生させたいのは勿論です。でも、それが簡単でなければ、まずは人が集まる場所・人が来なくなる場所と定義直して、ゼロベースから使い道を考えてみる。その上で、行政ができることを考える。そういう方法もありではないかということです。			
				町民WS(まちの魅力づくり②)	■二宮いきコミュ(いきいきコミュニティ)プロジェクト ■概要:人をつなぎ、地域や場をつなぐ拠点づくり ▼具体的な取り組み:起業と空き家・空き店舗の活用 ・起業するためにはどうするかなどについて、専門家からレクチャーを受け、指導してくれるプログラムを実施する。 ・起業や商売を始めようと思っても、地主がなかなか土地を貸してくれない。仲介役がいれば、始められやすい。 ・その拠点に行けば、土地の貸与や店舗の空き状況などが分かるなど、起業についての情報が分かるようになっている。			
				秋山委員	・空き家の再生や活用を事業とし、宿泊施設としての提供を検討していく。 (別紙:「石段の家」プロジェクト-坂の上の家に明かりを灯す-)			
稲葉委員	■身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出 農業への支援は国が補助金を出し、半分程の負担で経営者候補者の研修を兼ねた雇用する事が可能となった。農業は厳しい状況から未だ打破出来ていないが、若い世代が農業へ強い関心を抱いている一つの希望である。農業は楽では無い、収入も一般企業に比べて低い。しかしながら、目の前でものが生まれる喜びは何物にも代えがたい。高知県は空き家の提供、農業支援を行い、今若者が全国から移住し、人口が増えつつある。前例が無いわけではない。二宮町は都市に近い為、農業へ興味を抱いている人が始めるには手を出しやすい立地条件である。特産物の普及も若い世代ならではの意見や広め方により今以上に周知される可能性が高い。空き家バンクと連携させ、上手く農業のアピールが必要である。							
岡本委員	3.雇用創出について: “長寿の里”(自然豊かな町でもよい)をイメージした雇用の創出については、特に思いつきません。私は環境NPO法人の代表として退職者に「家庭菜園」の提供を行っているが、最近耕放棄地が一段と目立ちます。耕作地の集約化を図り、総合的な農業振興が可能ならば二宮に相応しいアイデアだとは考えている。家庭菜園付きの住宅提供や農地の集約による新規就農者の育成、二宮独自の「食の流通システム」を作り上げることができれば、定住・雇用に結びつけられるが、現時点では雇用創出の決め手とはなりにくいと思う。							
		▼親・子・孫の同居・近居実現プロ	健康長寿課	-	-	-		

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画中基本計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。		反映	(案)への反映
② 二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる	(2) 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	▼ みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクト	生活環境課 産業振興課 生涯学習課	稲葉委員	<p>■二宮を体験できる環境づくり</p> <p>自然や文化の多い二宮町ではあるが、一貫したビジョンや地域の特徴が見えづらい。個々に行われている活動は素晴らしいのに、どこに行ったら参加できるのか、現在実際に活動が継続して行われているのか、把握しづらい状況である。空き家バンクと同時に二宮での暮らしが想像しやすいように地域をまとめ、発信していくことが必要である。情報が更新されていないかったり、写真の掲載がなかったりするのは意味がない。文字だけでは暮らしの想像が難しい。空き地のままよりも、戸建てが売れるのと同じ原理である。また、空き家を探る現地視察ツアーを開催するののも一つの手である。古民家に一泊し、地場産の野菜や海産物を頂く。空き家を実際に見ながら、みかん狩りや炭焼きを体験する事によって町と地域の人々への愛着を沸かせる。実際に移り住むことがなかったとしても、ツアーは町の知名度を上げる事と観光収入を上げる事に繋がる。</p> <p>役場の職員だけではなくても負いきれない仕事は、ボランティアを募り、ホームページの立ち上げやリーフレット作成をお願いする必要がある。</p>	二宮を体験できる環境づくりをしてほしい	▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	重点的方针に盛り込み済み 重点的方针2-1に記載してあります。 総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方针で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				井上委員	<p>■住民参加による蜀川再生事業</p> <p>・二宮は自然がいつぱいのイメージがありますが、海は泳げないですし、山で薪を切ったり、焚き火ができませんでしたわけではないし、意外と実際に自然と触れ合える場所はありません。一番残念なのは、町の中心を流れる蜀川が汚い上、水遊びができるような親水空間もないことです。蜀川が綺麗で、水遊びができるような場所があれば、小さな子のいる家族は大喜びでしょうし、子連れ家族の交流の場、子供の遊び場にもなります。昔は蜀川で泳いでいたと聞いたことがありますから、きっともっと綺麗だったのでしょう。秦野は、町の中心を流れる川が遊び場になっていますが、とても羨ましいです。</p> <p>・蜀川の水がもっと綺麗ならば、震災や噴火災害が起きて水道が止まった時に飲料水や生活用水として使えるので、安心につながります(飲料水にするにはさすがに浄水器を通す必要があるでしょうが、生活用水としてなら問題なく使えるでしょう)。震災時、一番困るのは、トイレと水です。二宮は人口密度が低いですし、山や海もあるので、トイレは最悪、外ですれば何とかあります。しかし、水がありません(井戸を持っている家はありますが)。蜀川が生活用水として使えるくらい綺麗ならば、いざという時に水で困ることがありません。蜀川再生は、災害対策としても意味が大きいです。</p> <p>・また、再生事業を住民参加型でやれば、コミュニティの醸成につながります。一緒に作業をすると人の距離は一気に近づきます。自分も町のために何かしているという貢献意識は、町への愛着を高めます。勿論、自治会・神輿会・子供会・消防団などに参加することで、町との距離は近づきますが、それら旧来型の住民組織は、誰もが気軽に参加できる雰囲気はないです(歴史的に培ってきた文化や不文律のルールが若い世代には古臭く見えてしまいます)、参加に伴う負担も大きいので、どうしても限られた人だけの参加になりがちです(或いは義務としての当番制になってしまいます)。しかし、川の再生事業なら新しい取り組みですから、参加者は、皆、平等な状態でのスタートになり、新住民や若い世代も参加しやすいでしょう。住民だけでなく、環境系のNPOにも参加してもらえば、取り組みとしての広がりも出ますし、町外の人との交流の場にもなります。</p> <p>・蜀川では水質改善、生態系&景観の再生、それに親水空間の創出を目的にするべきです。生活排水対策なども含めて大掛かりになりますが、中井町・大磯町とも協働しながら、きちんとした再生事業にできると良いと思います(流域の市町村連携の例としてもユニークなものになるでしょう)。(原文にはトヨタのプロジェクトの事例紹介あり)</p> <p>・欧米では、三面コンクリート張りにしてしまい、景観としても、生態系としても、親水空間としても魅力の乏しいものになってしまった河川を自然に戻す「近自然工法」が普及しています。氾濫にも強く、景観的にも美しく、生態系保全にも資する河川再生の手法はあるはずなので、研究者にも入ってもらって、最新の研究成果を活かした取り組みになればと思います。</p>	自然に触れられる機会を地域づくりのきっかけにしてはどうか	▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトに意見の主旨を反映しました 「住民参加」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標1(3)地域コミュニティの醸成支援 ▼みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に追記 分野別方針5-1-1に配慮事項として追記
				廣上委員	<p>提案1「百合が丘団地再生のまちづくり」</p> <p>・二宮町、県住宅供給公社、住民組織などで構成する「団地再生まちづくり協議会」を設立し、再生の方向や共有すべきビジョンについて議論し、必要な調整等を行う。</p> <p>・県公社が計画するハード・ソフト両面の再生施策は地域全体への波及に配慮し、住民組織との協力、連携を重視したものにします。</p> <p>・再生計画を通じて生じる用地、遊休施設には民間活力を積極的に導入し、地域の活性化につながる施設やサービスを整備していく。</p> <p>・高齢化の進展に対応した地域福祉を検討する住民組織(百合が丘地区高齢者福祉協議会)は町、社会福祉協議会などの協力を得て他地区でも展開可能な仕組みづくりに着手する。</p> <p>・前記「団地再生まちづくり協議会」と協力し、山百合の群生地(一色小塚山)、共同農菜園(計画中)、朝採り野菜売場、みかん畑、オリーブ畑、古民家、古道、横穴古墳群など地区内および周辺の文化・自然遺産を積極的に発掘・整備、PRし、地域再生に役立てる。</p> <p>・神奈川県に対し、県営テラス住宅(約200戸)についても再生計画の立案を求め、「団地再生まちづくり協議会」を通じた再生の取り組みをエリア全体に広げる。</p> <p>・戸建て地区でも増加が目立つ空き家対策では、空き家バンクや住み替え支援制度の整備に取り組み、子育て世代の流入を促す。</p>	自然に触れられる機会を地域づくりのきっかけにしてはどうか	▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトに意見の主旨を反映しました 「既存コミュニティの振興」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標1(3)地域コミュニティの醸成支援 ▼みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます 「空き家活用」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信 ▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトを参照	総合戦略にて対応 自然に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な取り組みを位置付けるのは難しく、概念は重点的方针で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				柏木委員	<p>二宮町の自然環境を大切に地域づくり</p> <p>里山、里地、里川、農地は緑を守ると言う事ですが、自然では維持できない。それなりの予算をつけて管理していかなければならないと思います。 現在は人がいる所には金はかけているが、人の住まない所には予算が付いていないのが現状です。</p>	自然環境を大切にしてほしい	▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針5-1-1にて対応
				町民WS(まちの魅力づくり②)	<p>■二宮いきコミュ(いきいきコミュニティ)プロジェクト</p> <p>■概要：人をつなぎ、地域や場をつなぐ拠点づくり</p> <p>▼具体的な取り組み：観光と文化</p> <p>・観光の目玉を作る必要がある。二宮に来ると「面白い」「楽しい」と思ってもらえるようなものが必要で、何を観光の目玉とするのか。</p> <p>・「吾妻山」は観光の拠点になり得る。子育ての人も吾妻山に訪れている。</p> <p>・観光としての「みかん」や「街歩き」も観光の目玉になれる。</p> <p>・「地曳網漁」を活用した「海の文化」も観光の資源になり得る。</p> <p>・魅力づくりには「文化」が必要である。二宮の文化として、石仏やお祭り、講、地域のつながりがある。</p> <p>・東大果樹園跡地も魅力がある。以前、ドク遊びを企画・実施したら、多くの人が来てくれて、楽しい催しを行うことができた。</p> <p>・こうした観光を売り出すためには、観光ボランティアを育成するプログラムが必要である。</p> <p>・海や川、野鳥、吾妻山、果樹園跡地、文化など各観光ポイントは現在、単独でバラバラにあるため、それらをつなぐ・マッチングさせる機能をその拠点が有する。</p>	観光まちづくりを進めてほしい	▼みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	重点的方针に盛り込み済み 重点的方针2-1に記載してあります。 総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方针で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
廣上委員	<p>提案2「広域連携による『里山・里川・里海ハイキングコース』の整備」</p> <p>・二宮、中井、大磯町の魅力ある施設、景観をネットワークとしてつなげる「里山・里川・里海」ハイキング、散策コースを設定する。設定に当たってはジョギングやツーリング愛好者のニーズにも配慮する。</p> <p>・すでにかなり出来上がっている経路については維持管理中心とし、未整備部分についての拡充もしくは新規整備に重点的に取り組み、3町の里山緑線を一体的に結ぶルートとして完成させる。標識などの仕様を一本化するなど、統一感をアピールできるものにする。</p> <p>・コースの起点や中継地点となる緑地公園、あるいはコースの整備・管理には住民組織やボランティアの参画を誘導し、飲食カフェの開設、地産品の展示販売等にも力を入れる。</p> <p>・これらの取り組みに必要な人材、地域組織の発掘や育成、コース確定後のPRキャンペーンは3町が共同で展開し、並行してコース周辺にある自然文化遺産の発掘・整備にも取り組む。</p> <p>・新規展開に当たっては「蜀川サミット」で積み重ねてきた実績をベースにしつつ、かつての軽便鉄道、道路交通網、ごみ処理事業などでつながりの深い平塚、秦野、小田原市との連携の方向も探っていく。</p>							
町民WS(まちの魅力づくり①)	<p>二宮コンシェルジュプロジェクト</p> <p>■概要：HPを使った二宮の魅力の情報発信</p> <p>・町には魅力が既にあるという前提で情報発信を行う。</p> <p>・一般的な観光情報だけでなく、町民の日常生活情報や休日の過ごし方など、二宮の様々な情報をリアルタイムで発信する。</p> <p>・町民の中から情報を発信してくれる人を幅広く募集する。</p> <p>▼具体的な取り組み：観光のお勧めルートの発信</p> <p>・HPでは町民がそれぞれ自分のお勧めルートを発信できるようにする。里山巡りや、鎌倉古道、道祖神など、テーマ性を持たせた観光ルートを発信する。</p> <p>・ガイドマップ等の印刷物は、現在は各主体がそれぞれバラバラにマップを発行しているので、大手旅行会社等が書式を揃えてパンフレットを作っているのを真似て、書式を揃えたと経費も安くなり、多様なルートを紹介出来るのではないかと。ボランティアガイド等による「まち歩き」を開催できると良い。</p> <p>▼課題、行政へのお願い：</p> <p>・安心してまち歩きが出来る歩行空間の整備や、案内標識の整備をお願いしたい。</p> <p>・学校の質がアップすれば、転入者も増えるのではないかと。</p> <p>・町が掲げる「長寿の里」は若いファミリー世帯の転入を狙うのであればミスマッチではないかと。</p>							

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。		反映	(案)への反映
② 二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる	(2) 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	▼生涯学習センター・ラディアンの交流拠点化プロジェクト	都市整備課 生涯学習課	駒沢委員	1.5 HUB構想 次の魅力作りはHUBになること。⑦文化HUBは、ラディアンを含めた諸施設を文化のリンクで結び付ける。従来、歴史は語られて来ているが、人が集う文化をつくり、二宮町の住民だけでなく、周辺住民も参加して楽しめるものを創っていくべきだ。	ラディアンを西湘地区の「HUB」として文化的機能を高めてほしい	▼生涯学習センター・ラディアンの交流拠点化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 分野ごとの文化の向上に関する取り組みは記載済みであり、総合的な取り組みとする部分は総合戦略(または重点的方針)に委ねたい。
				菅澤委員	1. 子どもや女性が魅力を感じるまちをつくる 3)「ラディアン」と「花の丘公園」をトータルマネジメントし、町民が使える場とする。 ④「ラディアン」は、町の施設を町民が借りるといのが実態で、町民の意見を反映して運営されているとは言い難い現状です。「花の丘公園」も鑑賞に堪える規模ではなく、十分活用されていません。 ②又、多機能を有していることからその管理運営が各部署にまたがり、経費が嵩む状況を生んでいます。(教育委員会・公園管理課・総務など) ③担当部署を一元化し、「ラディアン」と「花の丘公園」が連動する活用策を検討すべきと思いますし、その為には町民の運営参加が不可欠です。 ④各世代の町民で構成する(仮称)ラディアン活用委員会のようなものをつくり、図書館も含め町民がつくる拠点としたら魅力が増すと思います。 ⑤運営にあたっては貸し室やホール利用等一定の利用者負担は必要だと思いますが、図書館やこどものイベント時のP代は無料にして利用しやすくする。	ラディアンと花の丘公園を一体的に活用してほしい	▼生涯学習センター・ラディアンの交流拠点化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 分野ごとの施設の有効活用に関する内容は記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
	(3) 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の醸成	▼子どもたちの「生きる力」創造プロジェクト	教育総務課	連実委員	事例に「(3) 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の醸成」とありますが、このあたりは具体的施策に取り上げるまでもなく、細目事業としておいた方が良いかと考えます。	特色ある学校教育は細目事業ではないか	施策に位置付け 特色のある教育環境を二宮町の1つの強みとしてプロモーションに活用していきたいと考えています そのため、基本目標の施策の1つとして示していきたいと思います	—
				井上委員	「グローバル力、原始力、ローカル力」が身につく教育と「インクルーシブ教育」での特色づくり ・子育て世帯を呼び込むには何よりも教育を充実することが近道だと思います。(中略)つまり、グローバルに活躍できる力(=グローバル力)、世界がどうなろうか生きていける原始人的な力(=原始力)、その土地土地に受け継がれてきた技術や伝統を身につけていること(=ローカル力)、この3つです。これらはどれも一番大事ということではなく、どれも大事ではないでしょうか。文部省の学習指導要領に「生きる力」が掲げられるようになって久しいですが、これからの時代の「生きる力」とは、グローバル力、原始力、ローカル力の3つに集約されるのではないかと考えます。 であれば、二宮では、この3つを掲げた独自の教育政策を打ち出してほしいと思うのです。 ・学校教育でできることは限られますから、課外活動として取り組むべきこともあるでしょう。町には外国人の方は勿論、海外で生活してきたグローバルスキルの高い方々がいます。「長寿の町」二宮には、ローカリスキルを沢山持ったお爺ちゃん・お婆ちゃんもいます。原始力は、何より里山があります。この里山の自然を生かした教育の機会・場をつくれれば、原始力を身につけることができるでしょう。町にある資源を活かしながら、独自の教育システムを作り上げ、「子ども達の生きる力が身につく町」を打ち出してほしい、教育意欲の高い親達が移住してくると思います。(事例：厚木市の「希望が丘初等学校」) ・また、これからの時代に求められる「生きる力」という意味で重要になるのが、「多様な人々と共に生きる力」です。一般に、ダイバーシティ教育とかインクルーシブ教育と呼ばれるものです。インクルーシブ教育は欧米が先行していて、日本でもその導入が大きな課題となっています。インクルーシブ教育にも色々なレベルがありますが、目指すべきは、障がいを抱えた子達を特殊学校や特殊学級に入れずに、同じ学校、同じ教室で授業を受けられるようにすることです。 ・インクルーシブ教育はソフト面でもハード面でも、学校側が対応しなければいけないのが増えるので大変ですが、障がいを抱えた子にとっては勿論、そうでない子達への教育効果も大きいことが報告されています。例えば、ダウン症の子がいるクラスは荒れない、いじめが起きない、子供の共感性が育つ、等々の効果があるそうで、インクルーシブ教育が義務化されている米国では、ダウン症の子が、学校間で取り合いになるくらい人気だそうです。ダウン症の子を抱えた親達が、学校に受け入れてもらえなくて悩んでいる日本とは大違いです。 ・ですから、国のインクルーシブ教育導入政策に先駆けて、例えば、ダウン症の子の積極受け入れを二宮町で表明してみてもどうでしょうか。そうすれば、悩んでいる親達が、こそって移住してくるでしょう。(事例：島根県邑南町のシングルマザー移住) ・「インクルーシブ教育が進んでいる町」「誰にでも優しい思いやりのある二宮」というブランドが作れば、先進自治体として注目され、視察や移住も増えることになると思います。	インクルーシブ教育の観点から教育環境を充実してほしい	▼子どもたちの「生きる力」創造プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針2-2-1にて対応
稲葉委員	学力の向上を課題にあげているが、実際、二宮町の各小中学校は全国もしくは県内で何位なのか。学力は何年前に比べて下がっているのか。そして、何位から何位に上げる事を目標とするのか。ただ、「朝読書の時間を設けます」というような曖昧な内容では意味がない。どの科目をどのレベルまで上げるのか、それにはどういった対策を必要とするのか、明確な目標を掲げなければ努力したという結果しか残らない。町の魅力として謳いたいのであればそれなりの覚悟が必要である。 また、特色のある学校づくりとはなんだろうか。現在学校には特色がないのだろうか。英語教育を取り入れていると耳にしたが、学生の交流はしているのだろうか。先日、ブラジルのベラノポリス市と交流を行っている「二宮長寿の里国際交流協会」に伺った。英語教育だけが必要だとは限らない。それこそ、二宮町の特色を出すには相応しいのではないだろうか。「長寿の里」として現在交流をしている団体の協力を経て、手紙だけに留まらず、子供たちに国際交流の面白さを体験させるのも良いのではないだろうか。国際交流は自尊心を高め、地域への感謝が生まれる。ここで挙げたベラノポリス市に限らず、他地域と「姉妹都市」の締結を組むことも必要なのではないのだろうか。 小中一貫教育とは、「小中一貫校」にするという事なのか、または「小中一貫性を持った教育を行う」という事なのだろうか。「小中一貫校」の意味であるとするならば、学力低下の傾向にある地域が行うにはあまりにも危険である。教育課程及び教育目標に一貫性を持たせる事は必要だが、既に現在、地域で分けられた、ほぼ「決められた学校」へそのまま進学する生徒が多い中「一貫校」の必要性は全くない。 重要業績評価指数(KPI)の「毎日運動している児童生徒の割合」と体力向上については、現在子供の体力に問題があるという事なのだろうか。都内ならまだしも、二宮の地域性を考えると非常に不安である。しかしながら、学校生活の中で体育に割く時間も限られ、帰宅後は家庭に任せるしかないという現状で体力向上を学校教育に求めるのは難しいのではないだろうか。もちろん科目(体育)の質を向上させる事も必要なのだが、それに付いてくる事の出来ない子供たちばかりでは意味がない。体力を向上させたいのであれば、学校教育ではなく、保育を求めるべきである。主に0～6歳の間に生涯にわたる人間形成の土台が築かれる。その時期にこそ力を注ぐべきである。土台が出来てしまえば、それからの成長は子供自身が模索し、自ら意欲を持って吸収しようとする。	特色ある学校教育に取り組みしてほしい	▼子どもたちの「生きる力」創造プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針2-2-1にて対応				
	前田委員	■コミュニティスクールの実現化を目指し、保護者・地域の皆さん・教育委員会・校長などから組織される学校運営協議会を設置していただきたい。 ・教職員の数が増やすことができない現在、弁護士や医師、警察官OB等の専門家、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等で構成される「チーム学校」の設置をお願いしたい。サポートスタッフ(支援員)としての地域人材の活用として、海外経験のある企業のOBや主婦などに英語の授業を手伝ってもらったり、科学に強い人たちに理科の実験をしてもらったりできる。また、ICT専門員を配置したり、指導経験のない先生が担当している部活動を経験のある地域の人に代わってもらったりすることができる。その他、問題解決の手段として、司法による方法を選択する者が増加しており、専門家の支援が必要なケースが増加していること等が背景にある。	小中一貫校にして施設を複合化してはどうか	▼子どもたちの「生きる力」創造プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「公共施設の有効活用」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標1(1)公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり▼公共施設の総合的なマネジメントプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 学校教育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います			
町民WS(子育て・教育)	■小中学校の統廃合などによる公共施設の有効活用 ・小中一貫校にしてはどうか。 ・百ヶ丘保育園は狭いので人数が減っている一色小学校を保育園にしてはどうか。 ・小学校と保育園を一緒にして地元の人たちが集まれるコミュニティスペースにしたい。自然が沢山でなるにはもったいない。							

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。			
② 二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、二宮への新しい人の流れをつくる	(3) 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の醸成	▼ 子どもの「生きる力」創造プロジェクト	教育総務課	井上委員	<p>二宮町ポータルサイト・コミュニティサイトの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二宮に住むことを決める前、二宮のことを調べようと思っても、ほとんど情報がとれませんでした。今の時代、まずはインターネットで調べるという人が多いと思いますが、いくらネット検索しても、二宮という町がどんな町かよくわからない。実際に住んでからも、どういってお店があって、どうい活動があって、というのがほとんどわからない。地域に知り合いができると色々教えてもらえるようになりますが、それだっ出入りするコミュニティによって情報はまちまちです。 ・二宮では色々な人が色々な活動していますが、それが一元的に見られる場所がありません。Facebook上の「コモエスタ二宮」がある種のポータルサイトになりつつありますが、Facebookをやっている人しか見られせんし、Facebookゆえ情報の蓄積性や一覧性も弱く、限界があります。また、「結婚したら二宮に住もう」というサイトもありますが、これも情報発信の質・量ともに、十分とは言えません。 ・移住を考えている人向けというだけでなく、住民自身のためにも、町の情報が一覧できて、どこで誰が何をやっていて、これからどんな楽しそうなイベントがあるか等、情報を発信したり交換したりできる町のポータルサイト、コミュニティサイトのようなものがあれば良いと思うのですが、そういうものが作れないでしょうか。 ・ただし、この場合、どこかの業者に委託して、いかにも「行政がやっています」的な、面白さもお洒落さもないようなサイトを作るのではなく、既に二宮で情報発信している方々(コモエスタ二宮の管理人等)に相談しながら、今の若い人達にも支持されるような、センスの良いものを作ることが大事だと思います(住民自身に作ってもらったり、運営を委託したりするのも良いと思います)。 	HP等を活用して二宮町の情報を得やすい環境づくりしてほしい	→基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信▼「にのみやLife」プロモーションプロジェクト参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 町のHPは既に稼働しているため、町が公式に発信する情報は既に各分野にゆだねられています。また、町民の情報発信支援は分野別方針7-2-1に該当すると考えられます。 総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				稲葉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の醸成 「二宮町の自然環境を大切に地域づくり」でも挙げられているように、里山等の自然は子供健やかな成長を育む環境として重要である。それを活かした保育が実践されていないのは非常に勿体ない事実である。二宮の財産だと認識しているのであれば、最大の財産を使って人間形成を支えるべきである。 0～6歳の子供にとって必要なのは遊びと充実した睡眠である。親の願いは子供の健やかな成長と安心して命を預けられる場所である。働く親にとって、保育園に安心して子供を預けられるという事は安心して働く事が出来るという事である。 別紙にて例に挙げる保育園は他地域からも「園に入れたい」という理由で入園希望する親が多い保育園である。同保育園は無認可で保育料が認可保育園の倍を上回る金額にも関わらず、入園待ちが毎年出る程である。払う「保育料」以上に得られる満足度が大きいという事である。「人気」のある保育園の獲得は転入者の「獲得」に繋がる。また、保育の質の向上は親の社会進出を促し、学校の質の向上に繋がる。 町民ワークショップの検討結果に挙げられているように、『子育て・教育』に関して質の向上が今まさに求められている。『町の魅力づくり①』でも「有名な幼稚園を誘致する」との声が上がっている。「保育園・幼稚園」がただの「子供を預ける場所」では無いと認識しているからこそである。働く親が働くために子供を預ける場所ではなく、子供のために子供が伸びやかに成長し、学べる場所を必要としているのである。 	自然を活かした保育園・幼稚園をつくらしてほしい	→基本目標3 (1)子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくりの▼子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 保育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				井上委員	<p>里山保育を実践する公立保育園の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に触れさせることで子どもの感性・知力・体力を養いたいと思っている親は多く、森の幼稚園(森そのものが園舎、或いは森の中の仮設園舎で保育・教育を行う保育園や幼稚園)や里山保育、泥んこ保育を実践する保育園・幼稚園があるというだけで、引っ越してくる人がいる世の中です。二宮はせっかく自然が豊かなのに、その環境を生かした保育園・幼稚園がありません。特に、保育園に関しては、実に残念なことが多いのが実情で、多くのお母さん方が悩まれています。そこで、公立(町立)で、森の幼稚園のような里山保育を実践する保育園を作れたら素晴らしいと思うのですが、どうでしょうか。 ・保育園に子どもを通わせるお母さん達は、「仕事のために子どもを犠牲にしている」とどこか負い目を感じていたりします。ですから、保育園の質はとても重要です。質の高い保育園がない中で、女性活躍推進も子育て応援を叫んでも意味がありません。逆に、公立の質の高い保育園をつくることは、女性支援にも、子育て支援にもなります。また、そのような公立保育園をつくることは、「自然に溢れた子育て環境」という「二宮らしさ」をアピールする上でも効果的でしょう。既に量的には保育園は足りている中で、これから町立の保育園を新設するということに難しさがあるのは容易に想像できますが、「女性支援」「子育て支援」「二宮らしさのアピール」という一石三鳥の効果があるので、何とか実現できないでしょうか。 			

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映			
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。						
③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる	(1) 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり	▼子ども・子育て家庭への切れ目のない支援実現プロジェクト	子ども育成課	稲葉委員	<p>ネウボラ(neuvola)を創設し、妊娠、出産、育児期を通じた切れ目のない支援を行うとのことだが、現在ある「子育てサロン」とどのように差別化していくのか。元々フィンランドで始まったネウボラ制度は医療の側面が強く、産婦人科に通わずとも、定期健診を受けられるようになっている。近年では言葉通りの「相談できる場所」として精神的サポートの側面が強くなってきている。医療側面が弱ければ結局は各自病院に行くことになり、創設しても利用者が少なくなるのではないだろうか。千葉県浦安市は「こんにちば赤ちゃんギフト」を導入し、利用者を増やしているが、二宮町も「特別な何か」がなければ創設したのみで、国からの補助金目的に創設しただけになってしまう。</p> <p>ネウボラを創設するのであれば、知識、経験共に豊富な産婦人科医または助産師、保育士、保健師を常在させる必要があるのではないだろうか。(中略)出産後は各市町村から保健師または助産師が自宅を訪問する事になっているが、それに対しても不安と不満の声が上がっている。妊娠・出産というデリケートな部分だけに、相当な気を使って頂きたい。</p> <p>自治体が妊娠期から把握、サポートすることによって、戸籍上のみ存在し、所在が特定できないというような問題や虐待の問題はカバーすることが出来るかもしれない。しかし、それだけでは出生率を上げるという課題まではクリア出来ない。相談できる場所の充実だけでは出産に繋げることは出来ないのだ。出産し、子育てするには相当な金額がかかる。産みたくても産めないという問題にはどう取り組んでいくのか。妊娠期の受診料や出産時にかかる費用は助成金や保険等を適用し、妊娠をためらうほどの負担ではない。問題は出産後からである。動き回るようになり、手もかかり、お金もかかる。大学へ進学には最低400~500万はかかってくる。出生率を上げ、二宮で子育てをしてもらうには「ネウボラ」という分かりにくい制度よりも、補助金というはつきりと見える形のほうが確実ではないのだろうか。</p> <p>二宮町のファミリー・サポート・センター事業は現在どのくらいの利用者があるのだろうか。正直に安いという金額ではない。例えば、保育園の送迎に20日間依頼した場合、一日に1400円、月28000円も支払うことになる。これが、産休中だった場合だろうか。第二子以上の産休であった場合は、収入が減る上に、保育料に月28000円プラスされることになる。町からのサポートであるならば、補助金を導入し、軽減できないのだろうか。女性の社会進出が当たり前の時代になってきてはいるものの、妊娠・出産はハードルの高さを感じて仕方がない。二宮に在住し、子育てをしている人のほとんどが町外で就業している。仕事は町外で、子育ては「自然環境豊かな二宮で」と考えているのではないだろうか。と仮定するならば、一層そういった面に力を入れるべきではないだろうか。</p>	子ども・子育てに効果のある支援制度を考えてほしい	▼子ども・子育て家庭への切れ目のない支援実現プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針1-4-3にて対応			
				前田委員	・安心して出産、子育てができるように、産前・産後長期滞在入院ができるような産科・小児科病院、保育施設、高齢者介護施設の複合施設を誘致し、そこでの雇用を生み出す。						
				町民WS(子育て・教育)	<p>子育てカントリーづくりプロジェクト</p> <p>■概要：子育て世帯向けに転入プロモーションを行う。</p> <p>・二宮町の転入の理由は「家族や親戚がいるから」というものが多いので、長期的に考えた場合、たくさん二宮町で産んでもらい、その子どもたちが将来転入してきれることも意図して、転入してたくさん産んでもらうことが重要である。</p> <p>▼具体的な取り組み：出産から教育まで切れ目のない子育て支援</p> <p>・出産から教育までのサービスが町内で完結するようにする。</p> <p>・産婦人科を誘致するため、建物を町が立てて診療所を用意して、医者がいなくなっても別の人を呼んでこられるようにする。</p> <p>・子ども用品を取り扱う店舗を誘致する。町が建てた建物の一部を店舗として家賃収入を得る。</p>						
				職員WS	・子どもの予防接種の実施は、若い世代の出産や子育てを支援する上で重要であるが、法定の予防接種が無償である一方、任意の予防接種は自治体によって費用の有無が分かれる傾向にある。この任意の予防接種全種を無償化することにより、若い世代の出産や子育ての負担を軽減し、定住促進を図る。				有料予防接種を無償化してはどうか	国に対して要望していきます 任意の予防接種の無償化については、町単独で実施することは現状では難しい状況ですが、無償化の実現に向けて、引き続き国に要望していきます	国に対して要望していきます 任意の予防接種の無償化については、町単独で実施することは現状では難しい状況です。ですが、無償化の実現に向けて、引き続き国に要望していきます
				柏木委員	二宮町に永住してもらう為には子どもの医療費の無料化。他の市町村と比べると二宮は低いと思われる。金銭的に安い所をいつも見ている。				小児医療費の無料化を進めてほしい	現在、中学3年生まで無料化されました	現在、中学3年生まで無料化されました
				町民WS(子育て・教育)	<p>子育て世代の声を集めて実現する体制づくり</p> <p>・行政が子育て世代が集まる場所に向いて話を聞いて、できることを実現する体制づくり</p> <p>・子育て世帯の声を反映できる行政として、意見を聞く場を増やす。</p> <p>■子育て世代の声を集める工夫</p> <p>・子育て世代の声を具体的に拾い上げる場が定期的にあるとよい。</p> <p>・子育て世代同士で考える場を町が働きかけて用意する。</p> <p>・給食を熱心に考える親は少ない。まかせっぱなしではなく、動く親の支援や場や子育て世代の意見を町が受け入れる体制づくり</p>				子育て世代の意見を聴く場を設けてほしい	まちづくり移動町長室などの機会を活用し、意見を伺う場を設けていきます	分野別方針に追記 分野別方針2-1-2に配慮事項として追記
井上委員	<p>市民活動の支援制度の確立</p> <p>・プレイパークや朝市など、お母さん達を中心となって、育児のための自主的な活動が色々行われています。このように、行政が主導するプログラムだけでなく、町民目線での取組みが自発的に生まれてくることも重要だと思います。しかし、そういう自発的・自発的な取り組みの多くは、主催者がボランティアで実施しているため、負担が多くなりがちです。そこで、町民の自主的な町づくり活動を行政が支えるような仕組みを作れないでしょうか。支援内容については、資金面での援助であったり、場所が必要なものは地権者との交渉であったり、お墨付きや広報支援であったり、規制の緩和であったりと、色々なものがあり得ると思いますが、住民がやりたいことを行政が何とかして叶えてあげる。そういう行政側の姿勢と協働体制が、今後の町づくりには不可欠になると考えます。</p> <p>→今EUには、LEADERプログラムと言って、住民達が自らの地域社会の課題解決のために提案する活動に対して、助成を行うプログラムがあります。千葉県市川市では、住民税の1%を基金にして、市民活動の助成に当てるとい仕組みをつくっていますが、このようなやり方で町民自身に町づくりを担ってもらうための仕組みを作るのはいかがでしょうか。</p>	町民活動の支援を確立してほしい	→基本目標1(3)地域コミュニティの醸成支援 ▼みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針7-2-1にて対応							

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見		意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映						
				意見元	意見内容									
③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる	(1) 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり	▼ 子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクト	公共施設課 子ども育成課 生涯学習課	前田委員	※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。 ・保育の実情を踏まえ、保育の質・量を高めるための環境を整備する。(例 百合が丘保育園を一色小学校内に統合移転し、複合施設としてコミュニティ化を図る) ・保育士が不足している現状から見て、保育士の待遇改善(報酬等)を図り、人員の増をお願いしたい。	保育の量・質を高める環境づくりをしてほしい	▼子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 保育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います						
				町民WS(子育て・教育)	■保育園の質の改善 ・保育園と保護者の間をきちんと取り持つことが必要。園と対等に話し合えて、指導できる立場の団体が保護者の身近にあることが必要。 ・待機児童の解消とともに、保育の質や魅力的な保育にする。									
				井上委員	里山保育を実践する公立保育園の設立 ・自然に触れさせることで子どもの感性・知力・体力を養いたいと思っている親は多く、森の幼稚園(森そのものが園舎、或いは森の中の仮設園舎で保育・教育を行う保育園や幼稚園)や里山保育、泥んこ保育を実践する保育園・幼稚園があるというだけで、引越してくる人がいる世の中です。二宮はせっかく自然が豊かなのに、その環境を生かした保育園・幼稚園がありません。特に、保育園に関しては、実に残念なことが多いのが実情で、多くのお母さん方が悩まれています。そこで、公立(町立)で、森の幼稚園のような里山保育を実践する保育園を作ったら素晴らしいと思うのですが、どうでしょうか。 ・保育園に子どもを通わせるお母さん達は、「仕事のために子どもを犠牲にしている」とどこか負い目を感じていたりします。ですから、保育園の質はとても重要です。質の高い保育園がない中で、女性活躍推進も子育て応援を叫んでも意味がありません。逆に、公立の質の高い保育園をつくることは、女性支援にも、子育て支援にもなります。また、そのような公立保育園をつくることは、「自然に溢れた子育て環境」という「二宮らしさ」をアピールする上でも効果的でしょう。既に量的には保育園は足りている中で、これから町立の保育園を新設することに難しさがあるのは容易に想像できますが、「女性支援」「子育て支援」「二宮らしさのアピール」という一石三鳥の効果があるので、何とか実現できないでしょうか。									
				井上委員	「森の幼稚園」創業支援 ・ドイツで「森の幼稚園」が急速に広まったのは、保護者が7人集まって協同組合を作れば「森の幼稚園」の設立が認可される制度があるからです(ドイツの森の幼稚園は、コンテナハウスのような仮設校舎で運営されます)。認可されると行政から補助金が出ます。この補助金と利用者から払われる月の料金でドイツの森の幼稚園は運営されています。 ・上述したように、町立で森の幼稚園的な保育園をつくって頂くのが理想ですが、その一方で、自主的な取り組みを応援するのも大事だと思います。そこで、ドイツのように、やりたい人が数名集まって協同組合を作ったら「森の幼稚園(保育園)」を設立できる仕組みにしたらどうでしょうか(最低限の基準だけつけて、その基準を満たせば認定して、補助金も支給する仕組みにする)。勿論、そういう仕組みを作ったところで、本当に申請者が出てくるかは微妙なところですが、まずは制度を作ってみるのが大事だと思います。そうすれば、それを仕事にしたいという人が出てこないとも限りません(森の幼稚園をやりたい人が移住してくるようなケースもあるでしょう)。									
				稲葉委員	・特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の醸成 「二宮町の自然環境を大切に地域づくり」でも挙げられているように、里山等の自然は子供健やかな成長を育む環境として重要である。それを活かした保育が実践されていないのは非常に勿体ない事実である。二宮の財産だと認識しているのであれば、最大の財産を使って人間形成を支えるべきである。 0～6歳の子供にとって必要なのは遊びと充実した睡眠である。親の願いは子供の健やかな成長と安心して命を預けられる場所である。働く親にとって、保育園に安心して子供を預けられるという事は安心して働く事が出来るという事である。 別紙にて例に挙げる保育園は他地域からも「園に入れたい」という理由で入園希望する親が多い保育園である。同保育園は無認可で保育料が認可保育園の倍を上回る金額にも関わらず、入園待ちが毎年出る程である。払う「保育料」以上に得られる満足度が大きいという事である。「人気」のある保育園の獲得は転入者の「獲得」に繋がる。また、保育の質の向上は親の社会進出を促し、学校の質の向上に繋がる。 町民ワークショップの検討結果に挙げられているように、『子育て・教育』に関して質の向上が今まさに求められている。『町の魅力づくり①』でも「有名な幼稚園を誘致する」との声が上がっている。「保育園・幼稚園」がただの「子供を預ける場所」では無いと認識しているからこそである。働く親が働くために子供を預ける場所ではなく、子供のために子供が伸びやかに成長し、学べる場所を必要としているのである。									
				職員WS	・若い子どものいる子育て世代にとって、仕事や疾病により、一時的にでも急ぎ子どもを何処かへ預けなければならない事態に陥ることがある。保育園等で当日の空き状況によって緊急的に子どもを預けることを可能にし、働く親などに対して理解のある自治体との認識を定着させることで、若い世代の定住に繋げていく。				一時預かりサービスを実施してほしい	▼子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 保育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います			
				町民WS(子育て・教育)	子育てカントリーづくりプロジェクト ■概要：子育て世帯向けに転入プロモーションを行う。 ・二宮町の転入の理由は「家族や親戚がいるから」というものが多いので、長期的に考えた場合、たくさん二宮町で産んでもらい、その子どもたちが将来転入してきれることも意図して、転入してたくさん産んでもらうことが重要である。 ▼具体的な取り組み：預かり(一時)保育 ・社会福祉協議会が行うファミリーサポートでは、保護者のニーズ(夕方、日祝)を満たせないで、それ以外の預かりが必要である。 ・保護者や支援者の1対1の関係で、それぞれどちらかの自宅で預かるのでは、結局預けることができない。施設で預かってくれる場所をつくる。 ▼具体的な取り組み：子育ての保護者をつなぐコミュニティづくり支援 ・住民同士や様々な活動をしている方々との横のつながりや行政との協働が必要。集まればコミュニティができる。 ・近くに親戚がいなくても、子どもを預けて母親が働きに行ける環境づくり ・第1子の0歳の親向けには集まる場があるが、第2子以降は参加できない。親に子育て経験があっても、子どもと同じ月齢の子と知り合う機会は貴重なので、すべての子どもに対しての横のつながりが必要である。 ・高齢者の協力を得て行い、雇用創出にもつなげる。 ・シルバー人材センターのヘルパーの利用は、今の子育て家庭は知らないし、利用できるイメージがない。改善するなどが必要。									
				菅澤委員	2) 地域で子どもを応援する仕組みや拠点をつくり、支え合える地域づくりにつなげる (1) 小学校を拠点としたエリアに子どもの遊べる場や居場所をつくり、大人が見守る仕組みをつくる(町内3エリア程度を想定し、公共施設の統廃合もこれを基本に考える) ①ここを拠点に、学童保育やコミュニティスクールなどを展開し地域で子どもを育て見守る。 ②周辺の空き店舗や空き家などを活用し、町認可の「遊び塾」『学習塾』を開く。(講師は町民で自主運営だが、町が認可し担保する) ③人と人活動と活動をつなげるために、コーディネーターを置く。また、活動の継続性をはかるために、タイム/ンキングやポイント制等の仕組みを導入する。 ④各世代が集い交流することで、地域で高齢者が活躍できる場づくりや見守り支える関係性をつくり、地域包括ケアとも連動させる。							地域で子育てを応援する仕組みを作ってほしい	▼子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 保育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				町民WS(コミュニティ)	子育てに対する地域のサポート体制づくり(第2回の意見を掲載) ・子育て世代は時間的に地域活動への参加が難しいが、子育てに対する支援を求めている。 ・親の活動を通して子ども地域に参加する。まずは保護者が地域活動に参加しやすい環境づくりが必要だ。 ・地域の人に保育園の送迎など支援してもらえるような関係ができるとよい。そうしたちょっとした支援があると、子育て世代が地域コミュニティに参加しやすくなる。 ・今の子どもは野球や将棋など、昔の子どもがやっていたような遊びを知らない。保護者の有志で野球などを教えるケースもあるが、子どもに教えられるものには限界がある。 ・地域にはスポーツや遊びに詳しい人や専門性を持った人たちがたくさんいる。そうした地域の人たちが子どもの遊びに付き合ってもらい、いろいろ教えてもらえるとういと思う。 ・もっと大人と子どもの交流ができる。 ・高齢者で時間的に余裕のある人は声をかければ地域に出てきてくれると思う。子どもの活動を通じて地域活動への参加を促してはどうか。							子どもの居場所づくりに取り組みしてほしい	▼子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 保育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				職員WS	・働く親にとって、子どもの下校から自身の帰宅までの時間帯に子どもたちが安心して遊べる場所があると様々な面で安心できる。また、子どもに対してただ遊びを促すだけでなく学習等を実施・拡大することによって、子どもにとって有意義な経験となる。このような親子揃ってプラスになる施策への受入人数や実施時間の拡大、学習内容の拡充を図ることによって就学児童を抱える世代・就学児童をこれから抱える世代に対して誘致を図る。									
町民WS(コミュニティ)	■子どもが好きなだけ遊べる場づくり ○現状 ・子どもの遊び場は必要だが、実際作るとなると簡単ではない。 ・学童保育でさえいろいろな問題が出てきている。いろいろなルールや制約があり、子どもが気軽に行ける環境ではない。 ・放課後の校庭開放も一度帰宅してからでないと利用できないと言う不便さがある。 ・子どもは自分の遊びたい場所に自分で選んでいく。特に小学生になると、自転車などで少し遠くまでいける。必ずしも近くになければいけないわけではない。 ・遊び場づくりに限らず、地域での取組が成功している例には必ずキーパーソンが存在する。地域で活動するにあたってはそういった意欲のある人材を見つけることが必要となる。 ○取組 ・学童保育を少しゆるやかにした子どもが自由に入出りできる学童保育のような場を地域でつくってはどうか。具体的には、空き家を活用した地域の交流の場づくりを活用すると良いのではないかな。													

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。			
				町民WS(子育て・教育)	<p>■子どもが利用しやすい公共施設づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラディアンに授乳とおむつ替えの部屋をつくる。 <p>現在は、職員に言って空いている部屋を用意してくれるとのことだが、授乳やおむつ替えはすぐに必要なので、待っているのでは利用しにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域で行っているような、老人ホームと保育園が一緒になった施設 	子どもが利用しやすい公共施設にしてほしい	▼子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	分野別方針を追記 分野別方針7-3-4に、配慮事項として追加します
③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる	(2) 子育てと仕事の両立の推進	▼「女性が活躍できるまち」実現プロジェクト	企画政策課 福祉課 生涯学習課	井上委員	<p>「女性が活躍できる町」としてのブランド発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族×幸せ=にのみやStyle」は会議の席上でも異論がありましたが、やめたほうが良いと思います。ただし、二宮の印象を高めてもらうためにも、二宮の象徴になるものを「二宮らしさ」として発信していくことは重要と考えます。 ・では、何を「二宮らしさ」とするか。二宮に来て印象的だったのは、吾妻神社(弟橘姫がご神体。縁結びの神様)や浅間神社(木花咲耶姫がご神体。縁結びの神様)、それに六所神社(榊稲田姫がご神体。女性の守り神)と、女性にまつわる神社が多いことでした。女性が守られている町なんだな、と思いました。その後、妻が「女性のための鍼灸院」を謳い文句に南口に鍼灸院を開業させて頂きましたが、お陰様で、ここまで順調な滑り出しで、妻も東京にいた頃より、ずっと生き生きと暮らしています。妻の周りにも、移住してきて、ここ二宮で、自分らしい生き方をされている女性達がいいます。二宮は、きっと「女性の運が開ける町」なんだと思います。 ・女性の町長ですし、女性議員も多いですし、「女性が暮らしやすい町」「女性が活躍できる町」「女性を応援する町」というブランドづくりが、二宮ならできるのではないかと思います。具体的にどんな施策をしていけばいいのかまではアイデアは持ち合わせていませんが、それこそ町長や女性議員、それに役場の女性職員が中心となって町の女性達と対話を繰り返す中で見出していけば良いと思います。 →今最近、千葉県流山市が「母になるなら、流山市」というPRを行っていますが(都内駅構内にポスターを貼り出したり、専用ページを使って発信したりしています)、子育て以前の方も含めて、女性のための取組みを充実させているようです。こういうところが何をやっているのかも参考にしながら、女性のための取組みを検討してみるのも良いかと思います。 http://www.nagarevama-city.jp →愛知県豊田市では、山間の過疎地にIターン&Uターンしてきた女性達8人を取り上げた冊子「里こ」を制作・販売しています(http://sb-ken.com/contact/index.html)。移住支援の一環として作られたものですが、8人8様のライフスタイルが描かれていて、豊田市の山間部に移住するとどんな暮らしができるのか、イメージがしやすくなっています。この冊子のように、二宮町の女性達のそれぞれの素敵なライフスタイルを取り上げるような冊子・ホームページを作ってみるのも良いかもしれません(この場合、固定観念に縛られず、できるだけ多様な女性の生き方を取り上げることが重要です)。 	女性を前面に出したPRをしてはどうか	▼「女性が活躍できるまち」実現プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「女性が活躍できる町のPR」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信の▼「にのみやLife」プロモーションプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 分野ごとの子育て対策は記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
				稲葉委員	<p>■子育てと仕事の両立の推進</p> <p>母親の就業継続・就業支援については保育園や一時的な預け先の充実が不可欠である。男性の働き方の見直しは、企業問題が大きいため、町レベルで解決できる問題ではない。解決できる部分があるとするならば、二宮町での生活は出費が抑えられ、サポートも厚い為、長時間働く必要性が無いとアピールする事だろう。特色を出すとするならば、畑が安価で借りることが出来、農業ワークショップを充実させ、二宮のライフスタイルは出費が少なくて済むというイメージを持たせる事も一つの手である。農業への国からの支援が始まった今、経営者と連携を取り、空き家を安価で提供し、二宮町へ定住させる流れを作ることは必要である。</p>	子育てが家庭が生活しやすいことをPRしてはどうか	→基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信の▼「にのみやLife」プロモーションプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 分野ごとの子育て対策は記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映			
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。						
④ 二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくる	全体			町民WS(しごと場づくり)	人と資源の活躍プロジェクト ■概要 ・土地、建物、店舗、人材といった、二宮町特有の資源を最大限に活用し、行政がつなぎ役となった信頼性あるモデル事業の実現に向けた取り組みを進めます。 ▼具体的な取り組み：情報発信(町民、行政) ・「わたしは〇〇ができる」ということを町民自身が発信していく。町民からあがってきた声を受け止める場所をつくる。ボランティア・NPOなどの職場としての情報のほか、二宮町の事業者一覧など、全ての情報を集約させる。行政はそのような集約された場があることを、情報として発信する。ラディアン、駅など、多くの人々の目に入りやすい場所へ掲示板を設置する。企業を誘致するためにも、二宮町にいる人材のPRを積極的に行う。 ▼具体的な取り組み：資源の活用(土地、人材、スキル) ・町として人材を育成する。行政が間に立ち、土地や温泉等の民間資源の活用を進める。コーディネートに秀でた町民を人材として確保する。学術・研究に特化した事業者の誘致など、専門性に特化したまちを目指すことも考える。 ▼具体的な取り組み：町民意識の醸成(自分の成長、新しいことの受け入れ、行政の融通性向上) ・町民自らが、二宮町のこれからの担う人材として成長する。起業したい人を町民が呼んでくる。 ▼具体的な取り組み：事業の行政認定(信頼性) ・行政がつなぎ役となり、起業家としてのコーディネーターを活用した事業などを、モデル事業として認定する。	人材や資源を活用した雇用・起業促進	▼二宮町での起業・開業応援プロジェクト、▼二宮で働きたい人の就業応援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 産業等に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います			
				(1) 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり	▼ 二宮町での起業・開業応援プロジェクト	産業振興課	駒沢委員	1.1 産業の振興 最初の①産業の振興は、町内の遊休地を活性化し、知的産業の企業誘致を図ること、再生可能エネルギー資源の利用を促進し電力自由化を機会に地域エネルギー事業を官民が協働で推進する。 知的産業の企業誘致は、他の地域に負けない誘致条件を出すなど困難を伴うが、各種展示会等での積極的な働きかけを行うことで可能性が見えてくると考える。 再生可能エネルギー資源の利用促進で、得られた利益を地域に還元し、公共サービスの量・質の確保に充当するなど官民が協働で事業化することで新たな財源となる可能性が高い。	企業誘致をしてはどうか	企業誘致に関しては現時点で特定の業種を誘致することは難しいと考えていますが、▼二宮町での起業・開業応援プロジェクトを進める中で、二宮町への起業希望者に対する支援を行っていきます 「再生可能エネルギー」に関しては以下の項目にも意見を反映しました →基本目標4(2) 町の環境を活かした再生可能エネルギーの事業化検討の▼二宮の自然を活かしたエネルギーの地産地消実現プロジェクトを参照	総合戦略で対応 産業等に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います。
							町民WS(まちの魅力づくり②)	■二宮いきコミュ(いきいきコミュニティ)プロジェクト ■概要：人をつなぎ、地域や場をつなぐ拠点づくり ▼具体的な取り組み：起業と空き家・空き店舗の活用 ・起業するためにはどうするかなどについて、専門家からレクチャーを受け、指導してくれるプログラムを実施する。 ・起業や商売を始めようと思っても、地主がなかなか土地を貸してくれない。仲介役がいれば、始められやすい。 ・その拠点に行けば、土地の貸与や店舗の空き状況などが分かるなど、起業についての情報が分かるようになっている。	空き家を起業・開業支援に活用してはどうか	▼二宮町での起業・開業応援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「空き家活用」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 産業等に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います。
							職員WS	・異業種交流会の開催(創業コーディネーター)や空き店舗家賃補助(企業補助金等)の交付を行う。起業支援HP立ち上げなどICTを活用した支援を行う。			
				井上委員	ローカルビジネス創業支援 二宮は比較的裕福な人が多い割に、大磯にあるような洒落た店が少なく、買い物を楽しめる場所がないのが残念です。車で周辺に行けば何でも手に入るのでは不便はありませんが、もっとローカルな特色のあるお店があると、暮らしももっと楽しくなります。(中略)大型店と差別化するためにも、ハン屋さんのようにオリジナルな商品を自作できる製造小売型の、小商圏を相手にしたローカルビジネスの集積を目指すべきです。(例：たびすくま) ・二宮は、商圏人口は確かに少ないかもしれませんが、競争相手も少ないので、決して商売に向かない土地ではないと思います。ただし、商売を始めようと思っても、空き店舗が少ないのが難点です。商店街の店舗を借りようとする、シャッター街の割に家賃は割高に感じます。家賃さえもっと安くできれば、町外からでもお店をやりたい人が来てくれるでしょう。以前、会議の席上で商工会長が仰っていたように、町民による起業数は少ないかもしれませんが、しかし、店舗を用意するからお店をやりに来てくれと呼びかければ、町外からお店をやりたい人が来ると思います。 ・そこで、商店街の空き店舗になっているところを行政の力で貸し出せるようにし、かつ、家賃も低く設定(或いは、家賃の補助をする)した上で、空き家バンクのように空き店舗情報をPRする。また、今、二宮になくて、町民が欲しいと言っているお店の例示をし、そういうお店をやってくれる人に優先的に貸し出すようにする(複数集まる場合は店のコンセプトを提案してもらい、町民に選んでもらう)。そんな仕組みをつくれませんか。南口は、商店だったところがどんどん宅地化しています。宅地になってしまったら、商店街は二度と戻ってきません。人口も減っていく中、大型店舗の維持は難しくなるでしょうから、そのうち撤退していくでしょう。そうなったら買い物する場所がコンビニ以外なくなります。何としても商店街を残さないといけません。宅地になる前に、商店街を商店街として残す仕掛けを、是非、つくってください。 →商店街に賑わいを取り戻すためには、商店だけでなく、人が自然に集まってくる場所をつくることも大事です。(中略)(ポケットパークや)小さなカフェでもオープンすれば、さびれた商店街に潤いをもたらすオアシス的なスポットになるでしょう。シャッター街にコインパーキングというのは、全国的に広がっている光景ですが、それを二宮では断固阻止するという姿勢が大事ではないでしょうか。(事例：コインパーキングの緑地化(佐賀市)) →(中略)(ラディアンで自習している中高生のために)商店街の空き店舗を自習スペースとして整備し、自由に使えるようにしたらどうかと思いました。(中略)(ここで)言いたかったのは、商店街を商店の集積ではなく、人が集まる場所と定義し直してみたらどうかということです。商店街を商店がの集積として再生させたいのは勿論です。でも、それが簡単でなければ、まずは人が集まる場所・人が来なくなる場所と定義し直して、ゼロベースから使い道を考えてみる。その上で、行政ができることを考える。そういう方法もありではないかということです。						
				秋山委員	・空き家の再生や活用を事業とし、宿泊施設としての提供を検討していく。 (別紙：“石段の家”プロジェクト-坂の上の家に明かりを灯す-)						
				秋山委員	・秦野市が行っている企業誘致促進条例を参考に検討委員会の委員(横浜銀行、中南信金)との連携を検討する (別紙：上記事例に関する新聞記事)	金融機関との連携を検討してはどうか	「金融機関との連携」については、▼二宮町での起業・開業応援プロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 産業等に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います			
				井上委員	「森の幼稚園」創業支援 ・ドイツで「森の幼稚園」が急速に広まったのは、保護者が7人集まって協同組合を作れば「森の幼稚園」の設立が認可される制度があるからです(ドイツの森の幼稚園は、コンテナハウスのような仮設校舎で運営されます。認可されると行政から補助金が出ます。この補助金と利用者から払われる月の料金でドイツの森の幼稚園は運営されています。 ・上述したように、町立で森の幼稚園的な保育園をつくって頂くのが理想ですが、その一方で、自主的な取り組みを応援するのも大事だと思います。そこで、ドイツのように、やりたい人が数名集まって協同組合を作ったら「森の幼稚園(保育園)」を設立できる仕組みにしたらどうでしょうか(最低限の基準だけつけて、その基準を満たせば認定して、補助金も支給する仕組みにする)。勿論、そういう仕組みを作ったところで、本当に申請者が出てくるかは微妙なところですが、まずは制度を作ってみるのが大事だと思います。そうすれば、それを仕事にしたいという人が出てこないとも限りません(森の幼稚園をやりたい人が移住してくるようなケースもあるでしょう)。	自然を活かした保育園・幼稚園をつくらせたい	→基本目標3(1)子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における決められない支援と環境づくり▼子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 保育に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点の方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います			

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画(素案(案))への反映	
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。				
④ 二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくる	(2) 町の環境を活かした再生可能エネルギーの事業	▼ 二宮の自然を活かしたエネルギーの地産地消	生活環境課	駒沢委員	1.1 産業の振興 最初の①産業の振興は、町内の遊休地を活性化し、知的産業の企業誘致を図ること、再生可能エネルギー資源の利用を促進し電力自由化を機会に地域エネルギー事業を官民が協働で推進する。知的産業の企業誘致は、他の地域に負けない誘致条件を出すなど困難を伴うが、各種展示会等での積極的な働きかけを行うことで可能性が見えてくると考える。再生可能エネルギー資源の利用促進で、得られた利益を地域に還元し、公共サービスの量・質の確保に充当するなど官民が協働で事業化することで新たな財源となる可能性が高い。	企業誘致をしてはどうか	▼二宮の自然を活かしたエネルギーの地産地消実現プロジェクトに意見の趣旨を反映しました。「企業誘致」に関しては以下の項目にも意見を反映しました。 →基本目標4(1)地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり▼二宮町での起業・開業応援プロジェクトを進める中で、二宮町への起業希望者に対する支援を行っていきます	重点的方針に盛り込み済み 重点的方針2-5に記載してあります。 総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います	
				健康長寿課 産業振興課	稲葉委員	■身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出 雇用問題を解決するために、ショッピングモールと呼ぶ事も検討しなくてはならない。ショッピングモールは雇用を生み出すだけでなく、町外で得たお金を内に回す事が出来る。しかしながら、企業も需要の無い場所にはリスクが大き過ぎる。土地の坪単価を安くし、二宮に呼び込む必要がある。今月海老名にララポートがオープンした事が印象的であるが、何もあの規模モールが必要なわけが無い。駐車場が広く、雨に濡れることなく店舗に入ることが出来、生活に必要な物が揃う事が重要である。揃える生活雑貨も二宮町らしい特色ある店舗が望ましい。	商業施設を誘致してはどうか	▼二宮で働きたい人の就業応援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	総合戦略で対応 産業等に関する取り組みは記載済みであり、総合計画に具体的な内容を位置付けるのは難しく、概念は重点的方針で、具体的な取り組みは総合戦略で位置づけたいと思います
					職員WS	・介護従事者の人材不足を解消するため事業者及び就労者のヒアリングを行い、本当に必要な支援を研究し、具体的な支援へ移行していく。	介護事業者への支援をしてはどうか	▼二宮で働きたい人の就業応援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	
					職員WS	・資格を持っていても雇用主と上手くマッチングできずに家庭にいる女性や家事や子育ての合間に就労を希望している方のため、人材バンクの設置や職業訓練校とのタイアップにより交通費の支給等の支援を行う。	資格を持っている女性の就業支援をしてはどうか	▼二宮で働きたい人の就業応援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	
					菅澤委員	2. 町民が活躍できるまちをつくる (2) 「二宮版ハローワーク」をつくり、町民のニーズとサービスをマッチングさせる。子育てや高齢者福祉などの講師を町民に委託する。	二宮版ハローワークをつくってはどうか	▼二宮で働きたい人の就業応援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます	
				▼ 就農・地産地消応援プロジェクト	産業振興課	稲葉委員	■身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出 農業への支援は国が補助金を出し、半分程の負担で経営者候補者の研修を兼ねた雇用する事が可能となった。農業は厳しい状況から未だ打破出来ていないが、若い世代が農業へ強い関心を抱いている一つの希望である。農業は楽では無い、収入も一般企業に比べて低い。しかしながら、目の前でものが生まれる喜びは何物にも代えがたい。高知県は空き家の提供、農業支援を行い、今若者が全国から移住し、人口が増えつつある。前例が無いわけではないのだ。二宮町は都市に近い為、農業へ興味を抱いている人が始めるには手を出しやすい立地条件である。特産物の普及も若い世代ならではの意見や広め方により今以上に周知される可能性が高い。空き家バンクと連携させ、上手く農業のアピールが必要である。	就農者への支援をしてはどうか	▼二宮町での起業・開業応援プロジェクトに意見の主旨を反映しました 「空き家活用」関連については以下の項目にも意見を反映しました →基本目標2(1)「にのみやLife」の提案と発信▼空き家を活用した定住希望実現プロジェクトを参照 具体的な提案についてはプロジェクトを進める中で検討していきます
	岡本委員	3. 雇用創出について： “長寿の里”(自然豊かな町でもよい)をイメージした雇用の創出については、特に思いつきません。私は環境NPO法人の代表として退職者に「家庭菜園」の提供を行っているが、最近耕放棄地が一段と目立ちます。耕作地の集約化を図り、総合的な農業振興が可能ならば二宮に相応しいアイデアだとは考えている。家庭菜園付きの住宅提供や農地の集約による新規就農者の育成、二宮独自の「食の流通システム」を作り上げることができれば、定住・雇用に結びつけられるが、現時点では雇用創出の決め手とはなりにくいと思う。							
	職員WS	・耕作放棄農地の活用(農地バンク)の設置や農漁商工民の連携を図り農業の法人の誘致のPR等行う。							
	菅澤委員	1. 子どもや女性が魅力を感じるまちをつくる 2) オリーブを二宮の魅力づくりに活用する 「平和・健康・おしゃれ」なイメージがあり、「見る・摘む・食べる」など活用方法が多様なオリーブを二宮の魅力づくりに活用する。 ①駅周辺や公共施設にオリーブを置き、緑とおしゃれな。 ②オリーブ摘みや加工体験、食べる等、オリーブを楽しむ機会や場をつくる。記念樹としてもアピールする。 ③家庭でオリーブを育て・食べることを定着させるための講習会・試食会など。	オリーブを二宮の魅力づくりに活用してほしい			▼就農・地産地消応援プロジェクトの二宮ブランド事業を進める中でオリーブを含めた特産品のブランド化について検討していきます			

基本目標	施策の項目	事業項目	担当課	意見元	生意見	意見主旨	二宮町総合戦略(素案(案))への反映	二宮町総合計画中期基本計画(素案(案))への反映
					※ご提出いただいたご意見をそのまま記載しています。そのため、番号、書式等が統一されていませんが、ご容赦ください。			
⑤ その他	全体			菅澤委員	<p>○この間、総合戦略と総合計画を重ねるという意識で検討してきましたが、まちの実態に引きずられ未来志向の戦略が打ち出しにくい、総花的な施策になると感じています。</p> <p>○このまま人口減がすすんだら町の財源は減少し、高齢者福祉などのサービスも低下します。特に子育て世代が魅力を感じ「二宮に住んでみたい」と思えるような取り組みが必要で、という視点でいくつか提案します。</p> <p>○総合計画は、総合戦略(まちづくり)の方向性を確認したうえで、優先順位を整理し組み換えたら良いと考えます。</p> <p>1. 子どもや女性が魅力を感じるまちをつくる</p> <p>1) 駅前小学校があることを活かし、子どもたちの絵や作品・ウェルカムメッセージ等を飾り、駅からラディアンまでを楽しく歩けるストリートにする。</p> <p>2) オリーブを二宮の魅力づくりに活用する</p> <p>3) 「ラディアン」と「花の丘公園」をトータルマネジメントし、町民が使える場とする。</p> <p>2. 町民が活躍できるまちをつくる</p> <p>1) 町民活動補助金やサポートセンターを使いやすくし、情報や場の提供、資金面などのサポートで、町民活動を応援する。</p> <p>2) 「二宮版ハローワーク」をつくり、町民のニーズとサービスをマッチングさせる。子育てや高齢者福祉などの講師を町民に委託する。</p> <p>3) まちづくりに町民の意見が反映できる仕組みや機会をつくる。</p> <p>4) 国や県の施策も活用し、市民事業をサポートする仕組みをつくる</p> <p>3. 地域で子育てを応援し、子どもが主役のまちをつくる</p> <p>1) 子どもが主役になれるしくみや環境をつくる</p> <p>2) 地域で子どもを応援する仕組みや拠点をつくり、支え合える地域づくりにつなげる</p> <p>4. 県の施策や近隣自治体とも連携し、「生活をトータルにサポートする」「湘南で暮らす・遊ぶ・楽しむ」ことをアピールし、「住むなら二宮」と思える環境を整える。</p> <p>1) 空き家バンク制度をつくり機能させる。県公社の団地活用とも運動させる。</p> <p>2) 行政サービスをシンプルに使いやすくするためのICT化とワンストップサービスの提供</p> <p>5. 行政のICT化を早急にすすめ、情報の一元化と利便性を高めるとともに、コミュニティサイトをつくり、町と町民、町民と町民をつなぎ町内外に情報を発信する。</p>	優先順位を整理し構成を見直してほしい	構成については全体的に見直しを行い、具体的な取り組みはプロジェクトという形で示しました	—
				駒沢委員	<p>重要なことは定められた実施・政策を如何に推進するかである。</p> <p>基本目標がお題目に終わり現実性の不透明さが生じないようにするためには先ず町の姿勢が問われることになる。住民パワーを結集することが必要となるが、その前に住民の意識を高め行動を起こさせるような仕組み作りが必要となる。</p> <p>地域コミュニティの醸成支援、自然・教員・文化・芸術への取り組み、空き家バンク制度の創設、子育て支援体制の構築、就農希望者に対する農地・未使用地のコーディネート支援等々の課題を先ず町が主体性と信念を持って遂行することが成果につなげる為の基本と考える。政策実現に向けた町の積極的姿勢こそが現在多くの役割を担っている各地域の地区長・自治会長、社会福祉協議会、商工会、農業委員会との協働体制を強化することになり町民パワーを引き出す素となる。町長を始めとする町政の幹部、町議会議員の信念にもとずくリーダーシップの発揮が前提となるがそれを支える町職員の働きは必須条件である。</p> <p>持てる力に研ぎをかけさらなる能力向上を目指してもらうための研修と教育の機会を充実していただきたい。</p>	総合戦略の施策の実現に向けて確実な取り組みを進めてほしい	実現に向けてPDCAサイクルを用いて進行管理を行い、必要に応じて見直しを行う予定です	—
				蓮実委員	<p>第5次二宮町総合計画中期基本計画 分野別方針 骨子(案)</p> <p>1. 分野別方針2の中項目2の小項目②のタイトルが変更になっておりますが、現在の施策内容はそのとおりですが今後3カ年を見た時に、現在のタイトルの方が通っているのかと思われます。変更をしない方が良いと思います。</p> <p>そして、出来ればその順番も、①教育内容～、②教育環境～、③教育活動～、④～教育施設～ とした方がすっきりするのではないかと思います。</p> <p>2. 分野別方針3が生産学習・生涯スポーツ、歴史・文化 と変更になりました。</p> <p>これに伴い中項目、小項目について意見を申し上げます。</p> <p>中項目1は生涯学習・生涯スポーツの振興 として、順序と・を分野別方針のタイトルと同じにして整合性を持たせた方が良いと思います。</p> <p>小項目は①生涯学習・生涯スポーツの推進 ②地域スポーツの振興くらいにとどめて、 ③家庭・地域の教育力の向上 は、どちらかと言えば学校教育とのかかわりの方が大きいのではないかと思いますし、①生涯学習・生涯スポーツの推進に含まれると思いますので、敢えて表記しなくてもよいのではないのでしょうか？</p> <p>中項目2はふるさと教育を歴史に変更しています。</p> <p>中項目2では、町民による地域の伝統、歴史、文化の学びと伝承、という意味が含まれていると思います。</p> <p>よって、小項目を②地域の歴史文化の継承 とした方がより適切かと思えます。</p>	総合計画の内容を見直してほしい	総合計画で対応していきます	<p>分野別方針2</p> <p>分野別方針を修正</p> <p>分野別方針2-2の小項目を追加・修正しました</p> <p>分野別方針3</p> <p>方針タイトル、中項目タイトルを整理、修正しました</p>
行政運営				駒沢委員	<p>1.2 IT活用による行政の効率化</p> <p>次に、②IT活用による行政の効率化は、人口減と行政コストの関係で人口減の割合よりも行政コスト低減化の割合が高くなるだろうから、行政業務の整理(要・不要を判断)、見直したワークフローをIT化、更に他地域との業務の共通化を図り広域連携するなど行政のスリム化を計画的に実施する必要がある。</p>	行政運営を効率化してほしい	行政改革の中の取り組みで対応していきます	分野別方針に盛り込み済み 分野別方針7-3-3にて対応
				駒沢委員	<p>1.3 広域化</p> <p>更に、③広域化で公共サービスの対象を拡大しサービス効率・コスト低減を図る必要が高くなる。多くの公共サービスが少ない人口を対象とするよりも多くの人口を対象とした場合の方が効率よく、二宮町だけを考えるとコスト高で成立しないサービスでも広域化で対象を拡大すると採算が取れる事業となる可能性が高くなる。</p> <p>広域化での大きな課題は、周辺の自治体住民が二宮町を魅力あると認識してくれるかどうかにかかっている。魅力が無ければ広域化の働きかけも徒勞に終わる恐れが高い。</p> <p>そこで、魅力ある二宮町をつくるにはどうすべきか？前記の3提案も魅力作りであるが、加えて以下の魅力作りを提案したい。</p>	広域連携を進めてほしい	<p>総合計画で対応していきます</p> <p>行政改革の中の取り組みで対応していきます</p>	<p>分野別方針に盛り込み済み</p> <p>分野別方針7-3-5にて対応</p>
				稲葉委員	<p>二宮町の人口減少を少しでも緩やかにする為には、若い世代への手厚い支援を行う事が重要である。子育て支援をしなければ、出生率は上がらず、財政難に追い込まれ、結局は在住する高齢者への支援も行わなくなってしまう。まずは、来て、産み育ててもらう事に重点を置かなくてはならない。限られた予算をどこに使うかよく検討して頂きたい。</p>	予算配分を十分検討してほしい	各年の予算編成の中で事業の優先度については検討していきます	<p>分野別方針に盛り込み済み</p> <p>分野別方針7-3-1にて対応</p>